

第 1 節 教育課程表

令和3年度・令和4年度・令和5年度入学生（枠内がSSH研究開発科目に係る科目）

[illegible]

令和5年度(2023年度)教育課程表			熊本県立宇土高等学校 全日制											
学 科			普通科											
入学年度			令和4年度(2022年度)入学											
令和5年度(2023年度)現在の学年(○印)			令和4年度(2022年度)入学											
類型(コース)			I		II			III			計			
教科	科目	標準単位	空 海 陸	通 学 生	G 文 学	G 理 学	S S	G 文 学	G 理 学	S S	G 文 学	G 理 学	S S	
国語	現代の国語	2	2	2							2	2	2	
	日本文学	2	3	3							3	3	3	
	論理国語	4			2	2	2	2	2	2	4	4	4	
	文学国語	4												
	国語表現	4												
地理歴史	古典歴史	4			3	2	2	3	2	2	6	4	4	
	地理総合	2			2	2	2				2	2	2	
	地理探究	3									0・1	0・1	0・1	
	歴史総合	2			2	2	2				2	2	2	
	日本史探究	3									0・1	0・1	0・1	
公民	世界史探究	3									0・4	0・4	0・4	
	公共	2	2	2	2						2	2	2	
	倫理	2									2	0・2	0・2	
	政治・経済	2									2	0・2	0・2	
		2									2	0・2	0・2	
数学	数学Ⅰ	3	2								0・2	0・2	0・2	
	数学Ⅱ	4	1		3	3	3				6・7	3・4	0・1	
	数学Ⅲ	3				1		3				1・4		
	数学A	2	2								0・9	0・9	0・2	
	数学B	2		2	2			2	2		2	4		
	数学C	2						2	2		0・2	2		
	*探求数学Ⅰ	3		3							0・5	0・5	0・5	
	*探求数学Ⅱ	7					6			7		6		
	*探求数学Ⅲ	7										7		
	*数学演習	3										0・3		
理科	科学Ⅰ・図生説	2												
	*基本科学	1	1	1							1	1	1	
	*探究科学	7			3			4			7			
保健体育	体育	7~8	3	3	3	3	3	3	2	2	2	8	8	8
	保健	2	1	1	1	1	1	1				2	2	2
	音楽Ⅰ	2										0・2	0・2	
	音楽Ⅱ	2									0・2	0・2	0・2	
	芸術Ⅰ	2									0・2	0・2	0・2	
	芸術Ⅱ	2									0・2	0・2	0・2	
	芸術Ⅲ	2									0・2	0・2	0・2	
外国語	英語・コミュニケーションⅠ	3	3	3							3	3	3	
	英語・コミュニケーションⅡ	4			4	4	4				4	4	4	
	英語・コミュニケーションⅢ	4						4	4	4	4	4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2	2							2	2	2	
	論理・表現Ⅱ	2			2	2	2				2	2	2	
家庭	論理・表現Ⅲ	2						2	2	2	2	2	2	
	家庭内課	2	2	2	2						2	2	2	
	保健Ⅰ	2	1	1							1	1	1	
	保健Ⅱ	2												
		2												
ロジック	ロジックプログラム	1									0・1	1	1	
	*ロジック実習基礎	1	1	1							1	1	1	
	*SS課題研究	3			1	1	2			1	1	1	3	
	*CS課題研究	2			1	1		1	1		2	2		
	*SS探究物理	6					2	3					0・6	
	*SS探究化学	6									4	3	6	
	*SS探究生物	6					2	—					0・6	
	*CS探究物理	6									4	3	0・6	
	*CS探究化学	6					2	3						
	*CS探究生物	6											0・6	
家庭	家庭内課	2~10	31	31	23・31	31	31	31	31	31	23・31	31	31	
	フリータイム				2・3						0・3			
	専門科目計		0	0	0・2	0	0	0	0	0	0	0・2	0	0・2
合計	ホームルー・自主活動		1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	
	平日・未来探究活動	3~6												
合 計			32	32	32	32	32	32	32	32	96	96	96	

令和5年度(2023年度)教育課程表			熊本県立宇土高等学校 令和5年度(2023年度)入学							
学 科			学 年							
令和5年度(2023年度)現在の学年(2023)			令和5年度(2023年度)入学							
類型(コース)			(1)	II		III		計		
教科	科目	標準配分	※	社会 歴史 地理	自然 科学 数学	社会 歴史 地理	自然 科学 数学	社会 歴史 地理	自然 科学 数学	
国語	現代の国語	2	2					2	2	
	古典国語	2	2					2	2	
	英語国語	4		2	2	2	2	4	4	
	古典総合	1	3	2	2	3	1	6	4	
	漢語総合	2	2	2				2	2	
地理 歴史	地理探究	3						0+4	0+4	
	歴史総合	3						2	2	
	日本史探究	3	2	2			4	0+4	0+4	
	世界史探究	3						0+4	0+4	
	公民	2	2					2	2	
公民	倫理	2						2	2	
	政治・経済	2						2	0+2	
	現代社会	2						2	0+2	
	数学Ⅰ	4						5		
	数学Ⅱ	3		3		2		5	0+3	
数学	数学Ⅲ	3								
	数学A	2								
	数学B	2	2					2		
	数学C	2						2	0+2	
	*探究数学Ⅰ	5	5					5	5	
理科	*探究数学Ⅱ	6		6				6	6	
	*探究数学Ⅲ	3					3		3	
	*探究化学Ⅰ	3							0+3	
	*探究生物Ⅰ	2								
	*探究物理Ⅰ	1	1					1	1	
保健 体育	*探究化学Ⅱ	2						2	2	
	体育	7~8	3	2	2	2	2	7	7	
	保健	2	1	1	1			2	2	
	音楽Ⅰ	2						0+2	0+2	
	音楽Ⅱ	2						0+2	0+2	
芸術	美術Ⅰ	2		2C				0+2		
	美術Ⅱ	2						0+2	0+2	
	美術Ⅲ	2		2C				0+2		
	音楽Ⅰ	2						0+2	0+2	
	音楽Ⅱ	2		2C				0+2	0+2	
外国語	英語・コミュニケーションⅠ	3	3					3	3	
	英語・コミュニケーションⅡ	4		4	4			4	4	
	英語・コミュニケーションⅢ	4				4	4	4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2					2	2	
	論理・表現Ⅱ	2	2					2	2	
家庭 情報	論理・表現Ⅲ	2				2	2	2	2	
	家庭基礎	2						2	2	
	情報Ⅰ	2								
	情報Ⅱ	2				2C			2	
	国際	1						0+2		
英語	球教探究基礎	1								
	球教探究	1	1					1	1	
	*ロジックプログラムⅠ	2		2	2			2	2	
	*ロジックプログラムⅡ	1				1	1	1	1	
	*ロジックプログラムⅢ	1	1				1	1	1	
ロジック	*Web・BeingⅠ	1						1	1	
	*Web・BeingⅡ	1		1	1			1	1	
	*探究物理Ⅱ	3							0+6	
	*探究化学Ⅱ	5			2	2	3	4	5	
	*探究生物Ⅱ	6							0+6	
各コース共通教科計			30	28+30	30	30	30	88+90	90	
家庭	フナ・ドデザイン	2~10		2C				0+2		
	専門教科計		0	0+2	0	0	0	0+2	0	
授業活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	3	
研修	宇土実業学園研修	3~6								
			93	91	91	91	93	102	103	

SS.....ス パ サイエンスス ース GS.....グロ バルサイエンスス ース(◎はどれか)8 日を選べる

第2節 運営指導委員会の記録

(1) 第Ⅲ期・第1回運営指導委員会

期日 令和5年9月21日(木)

会場 熊本県立宇土高等学校校長室

内容 開会挨拶 【前田浩志 課長】

校長挨拶 【横川 修 校長】

概要説明 【水口雅人 SSH 研究主任】

研究協議

閉会挨拶 【前田浩志 課長】

出席 運営指導委員、県教育委員会、本校職員13名

〔運営指導委員〕

松添 直隆	熊本県立大学環境共生学部 教授 委員長
齊藤 弘順	崇城大学大学院工学研究科 教授
城本 啓介	熊本大学大学院先端科学研究部 教授
斉藤 貴志	名古屋市立大学 大学院医学研究科 教授
岩間 世界	熊本学園大学商学部商学科 准教授
水野 恵介	熊本保健科学大学経営企画室長

〔県教育委員会〕

前田 浩志	熊本県教育庁高校教育課 課長
本山 幸広	熊本県教育庁高校教育課 SSH コーディネーター
藤野 弘明	熊本県教育庁高校教育課 指導主事
堀 圭介	熊本県立教育センター 指導主事

研究協議

第Ⅲ期研究開発の概要と採択時、文部科学省からの指摘事項への対応状況

■このⅢ期の申請に当たって、「ウェルビーイングを目指し、UTO-LOGIC を駆使して新たな価値を創る科学技術人材の育成」という研究開発課題に基づいてスタートしている。文部科学省でこのⅢ期の審査をしていただき、指摘を色々いただいた。これまで積み上げてきた実績をしっかりと評価していただき、高い期待と持っていていただいている。同時にいくつか御指摘をいただいている。これから御助言もいただきながら、学校のほうでしっかり取り組んで行かれると思っている。本日は、是非忌憚のない御意見をいただき、宇土高校の取り組みがより前にしっかり進めるようにお力をいただければと思っている。 【前田課長】

■第Ⅲ期SSH11年目のスタートを切ることが出来た。自ら設定した課題は決してやすいものではない。ヒアリングの中でも総じて好意的な質問であり、期待の大きさを感じた一方で、盛りだくさんの企画だけれども本当にできるのかという視点のお尋ねもあり驚いた。これからどんな風に行っていくといいんだろうと方向性が見出せていない。先ほど見学していただいた情報と数学の融合科目 Well-Being の取り組みを始め、SSH校として学校設定科目を設けながら新たな取り組みチャレンジしていく使命があると思っている。全国に先駆けて取り組んで全国の先生方と交流を深めなければならないと同時に、熊本県内の多くの高校の先生方にも御覧いただき、熊本県内の多くの学校のモデルになるような取り組みも一緒に模索していきたい。改めて皆様方の御指導御助言を賜りながら取り組みを進めていきたい。 【横川校長】

■特に議論したいのが「女子生徒の取り組みの開発について」と「取り組みに無理がないか」の点も議論していきたい。

【水口 SSH 研究主任】

■そもそも労働者人口が足りない中で、特に工学系の女子学生の進学が少ないというのが日本の大学の特徴である。卒業した後どういった、実際に仕事があるのかっていうところのイメージがなかなか多分湧かない。逆に大学側が色々ともっともっとそういったところをこうきちんとアピールしないといけない。機械工学科は80人としても、女子学生は2人とかもある。以前ある大学は女子学生だけの枠を作るところまでやったことがある。ある意味そこまでやらないといけない。それをまたロールモデルという形で実社会で働いている方、どんどん情報提供しながらっていう形で。実際に技術者っていうところで女性がどう活躍するのか働いていけ

るのかといったようなところをもっともっと高校生に知るような機会を提供できる。例えば、技術者として活躍していらっしゃる女性の人生設計を見せてあげると興味を持つ女子学生も増えるのではないかなと思う。本来もっと技術系のところに女性が進出していかねばいけない。 【齊藤委員】

■女子学生の取り組みについては私も工学部の機械数理工学科なので、工学部全体としても女子学生、500人中の2割が女子なので似たような状況である。工学部の方でもこれは女子を増やさなければいけないという議論になる。10数年前に入試の方で女子枠をやり、それなりに女子は集まったが、九大の理学部数学が女子枠を作った時にどうして女子を差別的にそんな入試するのかって騒がれてその影響もあってやめた。2,3年前から国立大学の特に工学系で、女子枠を設定して推薦入試をするって流れがある。今度、熊本大学にできる情報融合学環も女子枠を作って女子を積極的に入れることをやっている。JSTの事業では間違いなく理系の女子をどう増やすかっていうのが根本にあると思う。理系に進む高校生をどうやってこの取り組みの中で増やしていきますかっていうことが問われている。パッと答えが出るような話ではなく、理系に進んだ大学生や女子学生を紹介して色々話をさせるということもあるが、どうしたら女子学生がそういう風な理系分野に進むように仕向けるようにするかが重要である。 【城本委員】

■文科省が考えているのはその女性リーダーの育成がメインである。研究費を獲得するためJSTや文科省に申請書を出す、男性だけで組んだチームは一切取ってもらえない傾向がある。女性の研究者をどうにかして加えることが必要。どうにかして女性を活躍する社会を作っていくというのは本当に根幹になってくる。女性だけのチームを作るっていうのも重要だし、男性と女性がチーム組んでいる中で、その中でも女子がリーダー的な役割を果たす、そういう先導っていうか、ですね。そういうことをやって大学とか社会に出た時に「私今まで頑張ってきました」みたいな女子を増やしていくんだということに繋がっていく。とりあえず、女生徒のところは国際共同研究とかの捉え方っていうのも文科省から要求されているようだが、これも今の流れとほぼ同様のところがある。 【齊藤委員】

■文系大学は女子大学生が多い。文系大学といえども教員としては女性が少ない。女性教員を増やせというのが理事会側からの要請としてあるが、なかなか難しい。大学の公募が出る時に同じ業績だったら女性を優先するとあるがなかなかうまくはいかない。ロールモデルという意味では、先ほど全ての教科で研究の問いを創るというところで研究に限らず、女性の研究者を育てる、要するに文科省は女性の研究者を作ることを出してもいい。女性の研究者は、若い方からそこそこまあ60代ぐらいの方までいるが、いろんな講演会などの研究をというのでも構わない。女の子は糸ノコを使って綺麗に木工工作をする。学際的になっていうところで芸術とかを含めていくと、より興味をもっと引き出せる。やりたいことから繋がると大学に入って学部でなく修士へ行き、そのなかドクターへ行く。 【岩間委員】

■短期的な目線と長期的な目線で考えると、通常の授業の工夫では有名な理系女子の活躍等を講演会等呼んで身近に感じることが短期的には効果があるのではないかな。根本を直すには小さい頃からそのようなものを見聞きしていないと、高校の授業で数回それを見たからすぐにそちらの方面に行くわけではない。宇土高校では小学校とのジョイントもしている、身近に小学校から理系女子を増やすような取組はどうかな。 【水野委員】

■女子も意外と理科に興味があると感じたのは、教育センターで「科学展」といって、夏休みの自由研究のコンクールを80年近くやっているが、それをどうにか発展させられないかということで資料を見ると、熊本は都道府県別で工学部進学者の男女比、男女差は全国で4番目に低い。科学展も大賞

を取るのが女子というのもザラにある。以前「メイクアップアーティストになりたい」と言っていた女子の話を聞いたら「化粧品に興味がある」ということで応用化学科に進学した。素質が隠れている女子はいると思う。普段の取り組みでどうそれを探し出すかという、「問いを設定するためには色んなことを自分ごととして捉える能力が必要」である。例えばウクライナの戦争を「かわいそう」とか「ひどい」で留まるんじゃなくて、「何故自分のお小遣いが減るのがウクライナと関わるのか」とか「弁当のおかずが一個減るのが関わるのか」とかいろんな事象が自分のことのように考えられるような能力が持てれば、それが工学部とか理学部とかに引かかるようなこともある。「問い」を設定するという取り組みが普段の授業の方でしっかりと取り組まれていくことが大事ではないか。【堀指導主事】

■そもそも日本の社会というのは、物を作ってという労働の社会。男が労働を行って、家庭には奥さんがいる。家に帰って風呂入って酒飲んで寝て、奥さんが家のことをやる。今、仕事内容も変わってきている。労働はだんだん減ってきて知的な仕事、社会構造が男女で分ける必要がなくなってきた。足元を見ていかないといけない。看護師養成しているところはほとんど女子学生である。そこに今は男子学生も入っていて、昔は看護婦さんだったが今は看護師さんと呼ぶ。一つはウェルビーイングという我々が考えてもぼやっとしている。家庭科はきちんと教えないといけない。家庭科の本は今すごく変わり、男と女とがいかに大事かっていうのが書かれている。そこを普通の授業として、家庭科をちゃんと教えるというのは大事である。一番良いのは我々が考えるより子どもたちに問うこと。意外と今の若い人たちも男、女ってそこまで分かれていない。子ども達の社会は女子学生は大学でも元気がいい。しかし社会の中に出て行って、結局子育てをしないといけないので仕事を辞めないといけない。【松添委員長】

■第Ⅲ期申請の「取り組みに無理がないか」ということも議論したい。【水口 SSH 研究主任】

■アートとサイエンスの融合というのは将来的にすごい。重要なゴールであり、ウェルビーイングに直結するような話でもある。それを達成していく中で、今回打ち出しているウェルビーイングが根幹として揺るがないっていうようなやり方がどうしても出てくる。その中で生徒の発表回数が多いとスライドを見ていて思った。発表をするとその練習に囚われていると本来やればいけないことをやる時間が減ってしまうということにも繋がってくる。うまく先生方が誘導されているが、先生方ものすごく大変になる。物量やお金の問題もあり、どこにどれだけお金を使って今回もらっている予算の中でやれることやれない事っていう線引きを見える化して共有した方が良いかもしれない。【斉藤委員】

■学際課題研究の中の防災がすごい範囲が広い。これもちょっと絞っていった方が良い。例えば最近だとやっぱ暑さがある。本学には社会福祉学部ライフウェルネス学科というスポーツやる子たちがいて「でも私たちスポーツしかないから化学なんか必要ない」と言う。それに対し「例えばスポーツドリンクは高張性と等張性って浸透圧、全然違う。スポーツする前に飲むものとした後に飲むもので変えなければならない」返す。一見その学生たちにしてみると全く関係ないというようなもの、特に防災やスポーツとかもウェルビーイングとかはぱっと見のイメージとしてはその健康とかスポーツとかいうのがある。そこには理系の化学、物理、生物などいろんなものが被さってくる。先ほどの話に戻るがそういったところからも、女子生徒でスポーツを頑張っている子も科学的な知見で理系的な知見もちゃんと持っている。学際課題研究がふわっと感じたのももう少し絞り込むようなものがあったても良い。【岩間委員】

■学際課題研究と防災課題研究は、この4つがメインのテーマとして5年間進めるということなのか。【松添委員長】

■これは学際課題研究で、集まった子たちの中でこのような

テーマで研究をしていくという形になる。毎年テーマは集まった中で色々変わってくる。【水口 SSH 研究主任】

■災害で一番大事なのは「自助・共助・公助」である。「自助」自分でまず考え、「共助」で地域の人たちとまず防災をする。更に今度は「公助」っていうのは、公共的なことになる。それぞれの役割分担されている感じで見ていた。自分ができるべきことと、友達などの近い人たちとやることは分けられている。そういう意味では防災も協働的に取り組んでいきたい。【松添委員長】

■今回すごく良い計画を立てているが、無理があるのではないかと指摘が「計画中的のものも多く」っていうふうなところが真ん中にあるので、その計画中的のものが多くということなのか。【城本委員】

■Ⅱ期目までの成果等を整理しつつも、第Ⅲ期における新たな取り組みややろうとしていることで申請書には盛り込んでいる。そのため、具体的なプランニングまではできていないことも、盛り込んでいる。企画としては面白そうだが、本当にやれるのっていう疑問はある。一方で、限られたマンパワーの中で生徒たちの物理的な時間の制約の中でも書いたことは何らかの形で形にできるというつもりで書いている。今年は1年目だがどこまで進められるかっていうのは、まだ模索している段階である。【横川校長】

■「5年間の中でこれだけのことをやります」と宣言したのが申請書であると考え、それは評価されたことになる。【城本委員】

■今後も、委員の先生方には新たな取り組みの実際を見ていただきながら指導助言をいただくことになる。【横川校長】

■指摘事項は、紙になっているからやらないっていうことはない。しかしこれにあまり翻弄されると、本当にやってきたことができなくなる。ウェルビーイングを立てたが、あまりウェルビーイングを追求しすぎてもだめ。ウェルビーイングとはこういうものだということにして、関係 or 探究するものでやっていく。一番困るのは何でもかんでもやりっ放しになって、こなすのに時間がかかって、子どもたちのことはほったらかしになって申請書作りに追われるようなことにはならないようにしたい。この1年間はそこを皆で考えないと混乱する。10年間やってきたことがひっくり返されてしまうことがある。あまり無理する必要はない。私もそのようなプロジェクトをやっている報告書を書いている。ここは教育の場である。子ども達に迷惑かけないようにこれまで通りにやってもらえればと思う。もう一回先生方、校長先生、副校長先生、教頭先生を始めとして落ち着いてプランニングできるように是非していただきたい。【松添委員長】

■限られた時間の中ではあったが貴重なご意見等ありがとうございました。温かく力強い御指導御助言を賜ったので改めてしっかりとこう地に足をつけた形での取り組みを進めていきたい。本日はありがとうございました。【横川校長】

■いろんな角度から御意見いただきましてありがとうございました。宇土高校のⅢ期目は文科省から指摘があるが、それに振り回されるなというふうな言葉をいただいた。生徒の学びは生徒が主体で、生徒の学びをどのように深めることができるか。我々はそこを追い求めていただければならないということを改めて感じた。また先生方にはお力添えをお願いしたい。本日はどうもありがとうございました。【前田課長】

(3)第Ⅲ期・第2回運営指導委員会

期日 令和6年2月15日(木)

会場 宇土市民会館会議室

内容 開会挨拶 【藤野弘明 指導主事】

校長挨拶 【横川 修 校長】

概要説明 【水口雅人 SSH 研究主任】

研究協議

閉会挨拶 【藤野弘明 指導主事】

出席 運営指導委員、県教育委員会、本校職員12名

[運営指導委員]

松添 直隆	熊本県立大学環境共生学部 教授 委員長
元松 茂樹	宇土市長
齊藤 弘順	崇城大学大学院工学研究科 教授
城本 啓介	熊本大学大学院先端科学研究部 教授
斉藤 貴志	名古屋市長 大学院医学研究科 教授
岩間 世界	熊本学園大学商学部商学科 准教授
水野 恵介	熊本保健科学大学経営企画室長

【県教育委員会】

本山 幸広	熊本県教育庁高校教育課 SSHコーディネーター
藤野 弘明	熊本県教育庁高校教育課 指導主事
堀 圭介	熊本県立教育センター 指導主事

研究協議

本校で行っているウェルビーイングの取組を、ループブックに照らし合わせてどう評価するか。

■SSHの第Ⅲ期の取組も1年が過ぎようとしている。この1年で地域にアプローチをしてサイエンスを作る視点が増えてきた。教育を通して地域に対する愛を育んでいきたい。本日は運営指導員の先生方のそれぞれの知見、様々な角度からのご指導ご助言を賜って明日からの教育活動に繋げていきたい。【横川校長】

■前回の運営指導委員会のテーマを受けて、女子生徒の取組の開発ということで話があった。その後は熊本大学との連携で「女子中高生のための理系進路選択プログラムサテライトセミナー」を中間発表会と合わせて11月に実施した。防災フェアや学びの部屋、SSH台湾研修など多くの女子生徒が参加した。本日の成果発表会も女子の生徒がかなり発表が多かったイメージである。少しずつだが、理系の取組の開発を進めている。本日協議したい内容だが、第Ⅲ期1年時の総括とあと2年次に向けて、ウェルビーイングに関する取組をルールブックあたりに照らし合わせてどう評価するかについてご助言をいただきたい。【水口 SSH 研究主任】

■GS課題研究の取組に地域課題の解決のテーマがいくつかあり、市長としては非常に考えてくれるのはありがたい。しかし、客観的に見てどうやってこれを行っているということを周りに知らせるか、例えばその企業だったら良い商品を作りましと作って、これを売り出そうとするためにはそれなりの広報戦略が必要である。それがなかなか難しい。この会議の内容が教育者の中では共有されていても主たる中学生進路指導に伝わっているのかなと思う。教育とはちょっと切り離れたような戦略があるのではないかと。宇土高校には素晴らしい先生がいるということアピールすることも中学生には有益な情報である。定員割れしている現状があるので、やっていることに自分たちで満足するのではなくいかに出していくかに力を入れて欲しい。これまでの実績があるのでその実績をPRすることが重要である。【元松委員】

■ループブックをどう評価するかは、最終的にはこれそれぞれ生徒からのアウトプットが出てくるが、そこまで到達している生徒が何割くらいいるのか、そのような形で評価していく。生徒の自己評価と教員が行う生徒が出したものを評価する他者評価がある。いろんな分析が必要であるが、宇土高校ではロジックループブックを評価するときにどのように評価すると考えているのかお聞きしたい。【齊藤委員】

■このループブックはマクロループブックである。一つ一つのマスをチェックリストで何個できているかを評価していく考え方になる。それが自己評価と他者評価、教員評価ですり合わせができるのが理想的である。まずはループブックについて見通しを持ってやるという趣旨と、教員が評価していく趣旨をすり合わせてやっていきたい。【後藤探究部長】

■大学院の博士後期課程で1人下から持ち上りの学生が入学するっていうときに願書を見たら宇土高校の出身だった。これから博士号を取って数学を研究する学生は年間1人いるかいなかである。先ほどの実績のところで言うと、ちゃんと実績は上がっていると先生方は自信を持って良い。もう一つ女子生徒の取組の開発だが、工学系の方でも非常に課

題で、高校の方で頑張らないとなかなか大学までは続かない。熊本大学も新しく情報融合学環を作ったのでそれで活動して女子学生を増やしたい。何故かという、企業の方からの要請が強い。特に半導体関連企業からは女性と男性職員の割合は半々ぐらいにしたい。商品開発をするときに、女性の視点男性の視点というところから女性の社員を増やしたい。そうすると大学の方で就職できる女子学生を増やしたいという要請に繋がってくる。いろいろ考えてはいるが、高校での取組と関係するかもしれないが、よく女子学生があの先輩がやはりどういうふうなことをやっているのか、すごく先輩の動向っていうのを気にしている。理系の女子を増やすときに先輩がどういう取組をしているのかをしっかりとアピールする。地道な活動かもしれないが、いわゆるロールモデルを見せる。あと今回、Well-Being I という数学と情報のインターセクションということでデータサイエンスもこれでどうこれから評価していくかだが、例えば宇土にもたくさん企業がある。その中でDX課題のようなデータサイエンスの知識を使っているいろいろな分析してもらって助かる企業が必ず存在するので、そこうまく結びつけて生徒がその課題に対して勉強したことを活かす視点で見られるような機会を作るお互いウィンウィンの関係になる。【城本委員】

■今回新たに設定したウェルビーイングについて、この設定が先走りしすぎではないか。例えばウェルビーイングが実際生徒にどれぐらい浸透しているのかをルールをちゃんと図っていく必要がある。卒業するときには自分がウェルビーイングってこうであると言えるようにならない意味がない。ただ一方で今日発表を聞いて、皆オリジナルな視点で頑張っている。その頑張りを世界や地域社会の中で、本当にどれぐらいのレベルで頑張っているのかが見えてくると、ある程度定量的な視点で見られるようになる。漠然と宇土高生すごいよねって言われても、どれぐらいすごいのか分からないと高校を選ぶときの選択肢も偏差値に対応してしまう。ロールモデル、これだけすごい人たちも輩出した、今世界的なレベルで考えてもこれだけすごいことを今やっていてそれを引き継げる後輩を探しているというような連続性も押していけると良い。【斉藤委員】

■本日はこのロジックループブックを見ながら研究を聞いていたが、Logicallyの3番目とか4番目とかが仮説やコントロールの設定が少し弱いと感じた。また、Objectivelyの3番目について、やりっ放しと取られかねないところもある。もちろん新しいことやらなければならないが、先輩がやってきたデータの中から次はどうなるかと、先行研究をちゃんと調べて自分が今どの立場なのか調べてから実験なり研究をする。質問を私がしても批判され慣れてない。それは高校生だから仕方がないかもしれないが、やはりそこを先生方で鍛えていただければかなり良い研究になる。自分の意見は言うけれどそれに対してこういう意見もあるとか、こういう考え方もあると言えばそこを言い返せない部分がある。その点を高校生のときに既にやっていると非常によくもっとSSHとして良くなっていく。【岩間委員】

■私の目線から見ると、今日は大成功だったと感じた。特に最後の大学生による締め言葉にもあったが、あれを聞いて高校側がしっかり教育されていると感じた。そこは中高一貫の強みであり、強みは他校に比べて重要だと思うので、しっかり抑えてきていることと、教員サイドが足並みを揃えることは大学としてもかなり重要だと考えて今いろいろ手を打っている。来年度、2年次に向けてのところは我々経営のところではマネジメントレビューというレビュー会をするが、こういったところでもしっかり課題が載せられるので、課題をしっかりとつぶしながら次年度行けば良い。【水野委員】

■昨日の授業研究と今日の研究発表を見ていて、文科省のヒアリングでもウェルビーイングという言葉がそっちに行くんですかと正直言われた。昨日の授業の中でまさにその課題研究とか、探究活動の土台となるデータをきちんと引っ張って

きてそれを根拠にして、自分が伝えたいこと傾向を見とったりとか、そういったところは日常の授業でも大事である。生物の授業ではデータをグラフ化してどのグラフだったら傾向が良い考察がやりやすいかなど、まさに Well-Being I の授業が理科とか数学とか他の授業に活かされ、それが土台となって課題研究にもしっかり繋がっていく。第Ⅲ期の1年目で全校体制を作るための横連携強化間連携がうまく回っていくとすごくレベルアップしそうな印象を持った。今日もGS 課題研究も含めて活発に研究成果の報告が出されていたので、まさに全校体制の初年度にしっかり回していくために先生方が工夫をされていると感じた。文系の方も学際課題研究やGS 課題研究でしっかりデータを捉えて発表すると今後さらに1年回して、また Well-Being II までいくのでそれが回り始めたときに他の教科との連携やデータを使って何か別のところに取り組みが発展しそうだと感じた。【藤野指導主事】

■全国にも中高一貫校のSSH校があるが、今日見て中高一貫校の強みが出た発表であった。中学生の発表を見てそれが高校生全部に繋がっている。中学校からの経験も活かしている。GS 課題研究について、今後研究が続いていくと思うが、その班の研究をお手伝いしたい。これだけ素晴らしいことをやっているのを、市民の方とか、周りの中学生小学生にもっとこうやっていることを私の立場として対外的にPR するお手伝いもさせていただきたい。【本山コーディネーター】

■協議内容のルーブリックの点について、本当にすごくよくできおり、これを評価する先生方が今本当に苦労されている、どうすればいいかっていうところの協議内容だったかと思うが、試行錯誤や取捨選択されながら進めていくと先ほども齊藤委員からあったように卒業時にどう評価したっていうのを生徒が見て、ここができてここができていないといふところの振り返りができての積み重ねで3年後、人間的に形成される、この目標にたどり着くと思う。【堀指導主事】

■対話力は必要である。これがしっかりできていたら大学や社会人になっても役に立つ。あと、要旨集を見ていて非常に面白い研究がある。「令和6年度の共通テストの傾向」とか「いじめ側の心理」とか、あるいは仕事の話で「保育士の業務を軽減する」「農業を活性化するため」などいろいろある。職業についての課題は将来自分たちがっていうのが、もしかしたらわかるそういうものもある。やっぱり10年やってきて、今カラーのなことを考えるとやはりこれまでこの研究課題を、どういうふうなことをやってきたかって取りまとめないといけない。キーワードで入れてもらい、どういう傾向が強いのか、あるいはどういうことを得意になってきたか。統計的なことでソフトがあるので、どういう言葉が強くなるということがどれくらい出てきたとタイトルだけになるので、そこを少し解析しないウェルビーイングに繋がってこない。SSHⅢ期目になってもⅠ期目に決めたことをⅢ期目もしっかりやれば良い。そこにウェルビーイングっていうのが少し関わっている、決してウェルビーイングを表に出してやるという意味ではない。それはあくまでも手法であり、考え方の一つである。今のキーワード検索キーワードで、どういうふうな研究課題の中でどういう表示があるのか、あるいはそれを少し先生方たちから見てどういう分野が今まで強かったのか、弱かったのか。是非まとめてもらいたい。【松添委員長】

■貴重なご指導ご助言、誠にありがとうございました。今日いただいたご意見等を生かしながら内も外もしっかりマネジメントしていきたい。今後ともご指導、どうぞよろしくお願い申し上げます。【横川校長】

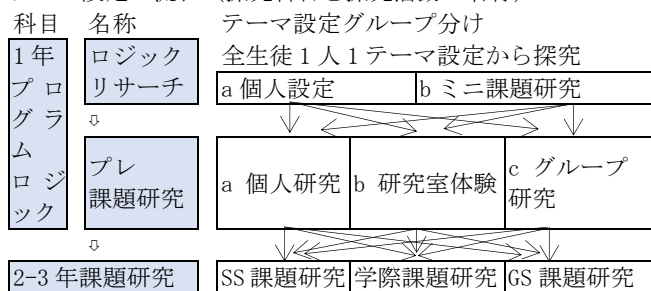
運営指導委員会からの助言を踏まえた SSH 事業改善

助言	普段の授業の取り組みを踏まえた、女子生徒の取り組みの開発の方向性について
----	--------------------------------------

改善	・中間発表会と連携して女子中高生理系進路選択プログラムサテライトセミナーを実施した。本校卒業生の女子学生を交えてのパネルディスカッションを行った。 ・熊本大学が主催しているはばたけ！熊本サイエンスガールズへの参加募集を呼びかけた。
----	--

第3節 教育課程上に位置付けた課題研究テーマ

テーマ設定の流れ（探究科目と探究活動の名称）



①テーマ設定方法

a 個人研究	プレ課題研究から継続して個人研究
b 継続研究	過去の課題研究で確立した手法を用いて研究
c 新規研究	プレ課題研究テーマからグループ編制

②指導の類型化 SS 課題研究、学際課題研究の指導方法

共同研究型	専門機関が確立した手法を用い、共同研究
連携型	適宜、専門機関から指導助言、施設機器を利用
自治型	学校内施設機器利用で課題研究を展開

（1）SSH 主対象生徒

3年「SS 課題研究」*2年次より継続した研究

テーマ	担当者
気柱共鳴の謎を探る	梶尾滝宏
定常波による水槽の重さの不思議	岩山真大
伝統的修復材「ガンゼキ」の科学的考察	下山智彦
PVAを用いて保湿性の高いハンドクリームを作る	宮本義幸
脂肪酸の炭素数とせっけんの性質との関係	
県産ミニトマトのアクアポリン遺伝子の複製	
昼寝に最適な音楽を探る	後藤裕市
家庭で培養肉を作ろう	
ネバネバに含まれる遺伝子の確認	
pHの変化が及ぼす乳酸菌の生育条件の検証	
九州を南下するアライグマ達のルーツを捕獲個体のDNAから探る	太田黒景司
干潟の浄化作用	
珍しい天文現象を観測する ～令和4年11月の皆既月食を中心として～	本多栄喜
タスク管理アプリの開発	竹下勝男
プロ野球の成績と年俸の関係	串山春樹
ロアツ熊本躍進の秘訣	水口雅人

2年「SS 課題研究」

テーマ	担当者	指導法	設定
定常波における波の重さの不思議Ⅱ	梶尾滝宏	連携	継続
ターンオーバー現象を科学する	岩山真大	自治	継続
光源の大きさによって虹の見え方は変わるのか	岩山真大	自治	新規
まるで忍者！？巻き貝が水面を這う不思議	太田黒景司	自治	個人
アスピリン(アセチルサリチル酸)の合成・収率をあげる条件は～	下山智彦	共同	新規
ガンゼキのレシピ化	宮本義幸	共同	継続
音を見分けよう	水口雅人	連携	新規
ロアツ熊本の飛躍に向けて～データ分析からロアツ熊本の守備を紐解く～	水口雅人	自治	個人
不知火海を吹く風を探る～近くに地域気象観測所がない「永尾」の風の推定～	本多栄喜	共同	継続
えっ、島が浮いている！？～浮島現象の発生・観測条件と原理～	本多栄喜	共同	継続
玄米乳酸菌液の発酵と分離	後藤裕市	自治	継続
物理療法が自律神経に与える影響	後藤裕市	自治	新規
自然の植物で簡単に作れる蚊よけ剤のレシピ化	後藤裕市	連携	新規

2年「学際課題研究」

テーマ	担当者	指導法	設定
雨あめ降れふれ母さんが、どこで母さん、雨はいつ降るの？	本多栄喜	共同	新規
液状化による被害を減らす～液状化の発生する条件～	本多栄喜	自治	新規
非常食の実態調査と宇土高校へ新たな管理方法の提案	本多栄喜	共同	新規
みんなにとって分かりやすいハザードマップとは？	本多栄喜	連携	新規
スポーツと戦略的睡眠～スポーツ選手を対象とした睡眠とヘルスケアに関するデジタル技術の活用について～	後藤裕市	連携	新規
日常生活において自転車運転の質に与える影響	後藤裕市	連携	新規
ペーパーブリッジを一定の負荷で座屈させる構造とは？	梶尾滝宏	共同	継続
ヘドロの可能性～産業廃棄物を使えるもの～	森内和久	共同	継続
五色山～有明海をつなぐスラッジペーパー	井芹珠美	共同	継続
ため池ヘドロ電池を作る！	梶尾滝宏	自治	継続

1 年「SS プレ課題研究」

SS コース・テーマ		担当者
研究室体験	引き波の謎を探る	梶尾滝宏 岩山真大
	天然界面活性剤の界面活性作用	下山智彦 宮本義幸
	肌に良い効果を出す乳酸菌	井芹珠美
	硬貨を使った乳酸菌の培養とその死菌の活用	
	ナチュラルチーズとプロセスチーズの違い	
	乳酸菌の培養	
	キムチに在る乳酸菌	
	プールの乳酸菌	
	運動が与えるストレス値の変化	後藤裕市
	ネバネバ物質の遺伝子のつながりを調べる	本多栄喜
個人	うわっ、メッチャ浮いとるやん!!～より浮いた浮島現象の観測～ 分がかりやすい斑状組織と等粒状組織をつくる～火成岩の組織の生成条件～	
	漁師の数の変化と日本の人口変化の関係	大島聡矩
グループ	電磁波と風の関係性について	梶尾滝宏 岩山真大
	太鼓の音がつくる図形	
	Arduino を用いた温度センサーの作成	
	偏光板に貼ったテープに色づくのはなぜか	
	エンジン音の解析	
	カフェインによる植物の生長抑制	下山智彦
	コーヒークサで SDGs の肥料をつくってみたいけん！	宮本義幸
	レッドラムズホーンズの活動	太田黒景司
	起床時に不快感なく起きるためには何が効果的か	後藤裕市
	眠る前にした方がよいもの	津田竜志
R 6 年度共通テスト数学ⅠAの傾向予想	宇土高校発信プロジェクト～プロジェクションマッピング～	水口雅人
	新しい形のルービックキューブを作りたい！	井芹洋征
	宝くじの評価数式を作ろう	川崎憲二
	R 6 年度共通テスト数学ⅠAの傾向予想	

(2) SSH 主対象以外生徒

3 年「GS (グローバル・サイエンス) 課題研究」

テーマ	担当者
台湾有事	永吉与志一
日本人の性格 ～中国と日本の歴史を比較～	
ストレス解消法を比較してみたばい！！	
ChatGPT は教育現場で規制するべきなのか	
五色山の活性化～泥がドロ～プロジェクションマッピング～	
ウトウトタイムで目をつぶるだけでもストレス値は軽減されるのか	

2 年「GS (グローバル・サイエンス) 課題研究」

分野	No.	課題・研究テーマ	担当
文化・芸術・スポーツ	a-1	MISSION:九州における隠れキリシタンの真相を暴け！	松永 夏海
	a-2	熊本方言の相違性	濱 克彦
人権	b-1	いじめの側の心理	橋本 慎二
地域社会	d-1	天草大革命	皆越千賀子
教育	e-1	保育士の業務を軽減するために	田島 亜希
	e-2	スマホ脳が人に与える影響について	松永 夏海
	e-3	地域と行う学校づくり	濱 克彦
医療・衛生・福祉	f-1	十代の医療に対する意識と地元医療の活性化	中村 圭子
農林水産業・食料	h-1	デコボンの皮からリモネンへ	原田 亜弥
	h-2	SUMIYOSHI の海苔を世界へ	皆越千賀子
労働	k-1	今、私たちが求める働き方とは	橋本 慎二
	k-2	宇土高校労働改革案	犬童 晴南
国際関係	m-1	竹島の領土問題について	橋本 慎二
環境・生態系	p-1	有明海におけるプラスチックごみの現状	白石 哲
	p-2	立岡池をきれいにしたい	原田 亜弥
	p-3	動物の蘇生方法	田島 亜希
	p-4	住吉海苔	原田 亜弥
	p-5	外来種による水田への影響	白石 哲
	p-6	アメリカザリガニの効率の良い減らし方	太田黒景司
	p-7	遊休農地の活用	田島 亜希
	p-8	海洋ゴミを減らすには ～未来の子どもたちへ～	犬童 晴南
	p-9	マイクロプラスチックが生態系に与える影響	長田 洋子
	p-10	菌の抑制	太田黒景司
ライフサイエンス	r-1	うつ病と対策	長田 洋子
	r-2	うつ病は脳の病気	白石 哲
	r-3	シャンプーの脱色成分について	永吉与志一
農林水産業・食料	h-1	農業を活性化するための提案	中村 圭子
	h-2	野菜の苦手克服を目指して	津田 竜志
情報	s-1	宇土の魅力	津田 竜志
	s-2	教育での AR アプリの制作	津田 竜志
地球・宇宙	u-1	人工知能による気象予測	中村 圭子
安心・安全	w-1	脆いガラス	松永 夏海

の科学技術			
宇土地域研究	y-1	世界のいきなり団子	皆越千賀子
	y-2	宇土から世界へ飛ばそう～宇土を発信するために～	皆越千賀子
	y-3	宇土雨乞い大太鼓の魅力	永吉与志一
	y-4	学校職員を人気職にするには	長田 洋子
	y-5	在日外国人が住みやすくするために	犬童 晴南
	y-6	アライグマの被害とその対策	永吉与志一
	y-7	災害に屈しない街を創るために	濱 克彦

1 年「GS (グローバル・サイエンス) プレ課題研究」

GS コース・テーマ	指導者
日本に取り入れるべき外国の教育	廣田 哲史
宇土市活性化のための SNS による発信	
これまでの人権問題とこれから	
宇土市の自然災害と防災対策	
睡眠と音楽の関係性	
アドレナリンとパフォーマンスの関係性	西本恵美子
宇土高校生の英語力を UP させたい！	
スポーツと音楽の関係性	
ホームとアウェイの勝率の違い	
水病の差別から学ぶこと	
舌～味の感じ方について～	小川 康
地球以外の惑星にもオーロラは出現するのか	
16 の性格診断について	
課外について	
様々な側面から見た日本	
熊本地区のちくちくアート	吉本真理
人はなぜ恋をするのか？	守川直杜
言語の起源に迫る！～なぜ地域によって言語は異なるのか～	小川 康
宇土の史跡で地域を活性化	
株価の変動を予測するために	
世界と日本の労働時間	
なぜ教員は減るのか	
私たちにフリーズドライ食品は作れるのか？？	井手裕美子
エネルギーと環境問題	
轟水源の歴史の関係	
歴代最高の日本代表を選出する	
なぜ西洋建築は美しいと感じるのか	
過去の差別と未来への価値観	井手裕美子
幼児の食育	
精神疾患の人を社会復帰させるために	
新エネルギーについて考える	
水の反射による見え方の違い	

(3) 1 年ロジックプログラム「ロジックリサーチ」

ID	テーマ	担当
1101	人が一番集中できる環境はどんな環境か。	中村 圭子
1102	構図や視線誘導による見る人の感じ方の違い	森内 和久
1103	いろんな薬の効果について	白石 哲
1104	1 円玉の使い方	濱 克彦
1105	夜、勉強するとき夜食は必要か？	沖村 麻美
1106	なぜ地球は丸いのか	梶尾 滝宏
1107	フォントが与える印象 影響	大窪 妙子
1108	なぜ人はホラー映画を怖いと思うのか	廣田 哲史
1109	サッカーにおける効果的な FW のオフザボールとは	守川 直杜
1110	音楽をかけたら足は早くなるのか	大島 聡矩
1111	夢と記憶	廣田 哲史
1112	「豊か」だといわれる国とは	白石 哲
1113	学校では集中して勉強するのに家でやるきがなかったりするのなぜだろうか	中村 圭子
1114	睡眠の質が私生活に与える影響	廣田 哲史
1115	疲れが 1 番とれる方法	中村雄一郎
1116	人はなぜ動物に癒やされるのか	長田 洋子
1117	なぜ人はいざれ死ぬのに頑張っているのか	水口 雅人
1118	睡眠	廣田 哲史
1119	コーヒードの焙煎の時間を変えることによって味がなぜかわるのか	森内 和久
1120	小さいときにやっていた遊びはなにか意味があるのか	中村雄一郎
1121	冷やご飯の効果	原田 亜弥
1122	運動がもたらす効果について	田島 亜希
1123	なぜ目に水が入ると痛くなるのか	廣田 哲史
1124	なぜインターネットが悪くなると画質も悪くなるのか	梶尾 滝宏

1125	ながら勉強は意味がある？	中村 圭子
1126	海外と日本の医療の違いについて	橋本 慎二
1127	外来生物が与える影響と対策	太田黒景司
1128	一日ずっと寝ているとどうなるか	吉本 真理
1129	地球温暖化がこの先も続いたら世界はどうなるのか	廣田 哲史
1130	人が宙に浮く	廣田 哲史
1131	ショートスリーパーになろう	松永 夏海
1132	虹ができる条件	沖村 麻美
1133	集中・暗記力を向上させる色とは	守川 直杜
1134	人間にとって癒やしとなるものは何か	廣田 哲史
1135	なぜあくびは、移るのか？	廣田 哲史
1136	年代別による好きな色とデザイン	森内 和久
1137	ブルーライトによる睡眠の質の変化	廣田 哲史
1138	チョコレートと血圧	大窪 妙子
1139	なぜ水の中では浮力が生じるの？	岩山 真大
1201	ジャンプ力と筋肉の関係	西本恵美子
1202	質の良い睡眠の仕方	西本恵美子
1203	生物の進化と生態系の変化	太田黒景司
1204	イギリス英語とアメリカ英語の違い	福島 和美
1205	睡眠中に夢について	水口 雅人
1206	睡眠とスポーツの関係	磯野 克康
1207	音楽と勉強の関係	中村 圭子
1208	生物は、なぜ哺乳類や魚類などの種類が分かれたのか	井芹 珠美
1209	強いチームと球場別集客数の関係	津田 竜志
1210	SDGsは実現可能なのか	福島 和美
1211	同じことをしても疲れる人と疲れない人の特徴	井手裕美子
1212	勉強中に聴く音楽による脳や勉強の効果	松永 夏海
1213	家庭環境と子供の学力の関係	原田 亜弥
1214	音楽が人にもたらす効果	水口 雅人
1215	なぜ日本人は桜が好きなのか	奥田 和秀
1216	紫外線が人体に与える影響	津田 竜志
1217	トマトの甘さの違いについて	井芹 珠美
1218	睡眠不足からの影響は年齢によって変わってくるのか	吉本 真理
1219	日焼けが体にもたらす害とメリット	守川 直杜
1220	食品添加物が体に及ぼす影響	皆越千賀子
1221	ラッコとの減少と地球温暖化の関連性	井芹 珠美
1222	記憶の定着に効果的な青ペンの使い方	井手裕美子
1223	竹刀の素材である真竹とカーボンの耐久性とその他の利用法について	磯野 克康
1224	人間と植物の関係性	中村雄一郎
1225	音楽と勉強の関係	井手裕美子
1226	人間と動物の筋肉の付き方の違い	西本恵美子
1227	EVはほんとに環境のためになるのか？	小川 康
1228	猫の社会的行動パターンの分析と解明	串山 春樹
1229	バッターとピッチャーの筋肉の付き方の違い	磯野 克康
1230	生き物の再生能力から医療について考える	西本恵美子
1231	外国人と日本人では病気になる確率やなりやすい病気は違うのか	吉本 真理
1232	血液型によって性格はどう違うか	守川 直杜
1233	何時間の睡眠が脳にとって一番いいのか	長田 洋子
1234	葉の種類や固さの違いで幼虫の食べ方や好みは違うのか	中村雄一郎
1235	一番集中できる音楽のジャンルは？	中村 圭子
1236	日本の英語教育の問題点	吉本 真理
1237	色を与える脳への影響	森内 和久
1238	すぐに寝れる人とすぐに寝れない人の違いについて	西本恵美子
1239	歴史を学ぶメリット	奥田 和秀
1301	動物を飼うことで長生きできるのか	串山 春樹
1302	金魚の体の色の変化と太陽の光の関係性	太田黒景司
1303	蚊に刺されたときのかゆみの違いの原因	長田 洋子
1304	大きなカブトムシを育てる	早田 誠
1305	生活習慣が及ぼす肌への影響	井手裕美子
1306	馬の脚の速さにちがいはあるのはなぜ	磯野 克康
1307	昆虫	宮本 義幸
1308	蚊に刺されやすい状態とは	植田 直子
1309	ゲーム別の課金額	宮本 義幸
1310	どうすれば忘れ物をなくせるのか	宮本 義幸
1311	卵の白身と黄身の違いについて	皆越千賀子
1312	何故わからないが生まれるのか	大島 聡矩
1313	年齢によって気に入る音の高さや調へは違うのか	大島 聡矩
1314	デザインが脳に与える影響と有効的な活用法	森内 和久
1315	破棄するシャー芯の活用方法	宮本 義幸

1316	熊本市における排除アートの意義	宮本 義幸
1317	クレヨンを消す方法	宮本 義幸
1318	飲み物を沈殿させずのむ方法	本多 栄喜
1319	地名の変遷	奥田 和秀
1320	猫によるストレス軽減と作業効率	串山 春樹
1321	油性ペンを上手に消すには	宮本 義幸
1322	筋肉量と筋持久力の関係	植田 直子
1323	豆苗の成長と水分の関係	大島 聡矩
1324	ボイ捨てが与える私達への影響	宮本 義幸
1325	人口減少と空き家問題の関係	早田 誠
1326	生ゴミを再利用しよう	皆越千賀子
1327	保湿度が高い化粧水はどのようなものか	大窪 妙子
1328	音楽が人に与える影響	大島 聡矩
1329	色彩の及ぼす心理的への影響について	水口 雅人
1330	日焼け止めの効果	津田 竜志
1331	羽毛の撥水性の利用	梶尾 滝宏
1332	物のデザイン	宮本 義幸
1334	緑が目にも良いと言われるのはなぜか	串山 春樹
1335	放射線 原子力	本多 栄喜
1336	肥料や生物の植物の生育に与える影響について	中村雄一郎
1337	ストレス発散には何が効果的なのか	宮本 義幸
1338	人々の自由を守るためにはどうすればいいのか	西本恵美子
1401	深海魚の研究	井芹 洋征
1402	うじむしをなにかに活かそう	井芹 洋征
1403	心が身体に及ぼす影響	井手裕美子
1404	トキソプラズマの生息地と姿の確認	井芹 洋征
1405	ストレス発散法 効率よく物事を進めるために	松永 夏海
1406	人口と飲食店の特徴の違いについて	早田 誠
1407	錠剤を飲むために	井芹 洋征
1408	ネギをより効率的に再生するには	皆越千賀子
1409	葉の溶けるスピードと一緒に飲む飲み物によって速さが変わるのか	井芹 洋征
1410	周りの色による 感情の変化	井手裕美子
1411	宇土市を観光都市にする方法	早田 誠
1412	肌色誘導現象について	井芹 洋征
1413	建築構造の中で一番強い構造はどれ！？	梶尾 滝宏
1414	個人や地域による色彩感覚の違いと特徴	岩山 真大
1415	どの飲み物で歯が一番溶けるのか	井芹 珠美
1416	地震と建築	小川 康
1417	動物の殺処分現状	太田黒景司
1418	効率的な勉強スケジュールの作り方	濱 克彦
1419	日本人の英語はなぜネイティブの人に伝わりにくいのか	橋本 慎二
1420	氷川町に外国人を引き寄せる	早田 誠
1421	周囲の環境による人格形成の影響	井芹 洋征
1422	なぜ論文を書かないといけなののか	植田 直子
1423	物の保温性を調べる	井芹 珠美
1424	ChatGPT や google bard はどれほどの仕事ができるのか	吉本 真理
1425	日程を取ることが苦手な人の原因と解決法、得意な人との違い	沖村 麻美
1426	日本人のパーソナルカラーとは	大窪 妙子
1427	みんなの得意、または好きな教科はなにか？それには小さい頃にやっていた習い事が関係しているのだろうか？	井手裕美子
1428	マリオの世界の重力とは	岩山 真大
1429	嫌いな食べ物の克服方法	大島 聡矩
1430	体に良い砂糖の代用品	井芹 洋征
1431	骨組みによつての強度の違い	梶尾 滝宏
1432	植物の心と音	小川 康
1433	人の価値観の違いについて	濱 克彦
1434	頑固な汚れのシミ抜き作戦	原田 亜弥
1435	百人一首の面白さ	濱 克彦
1436	ストレスと知識の関係	井芹 洋征
1437	なぜ宇土には地蔵が多いのか	濱 克彦
1438	宇土市の人口減少の原因と他の市との比較	井芹 洋征
1501	チェルシーはなぜ弱くなったのか	守川 直杜
1502	勉強を習慣づけるために必要なこととは	田島 亜希
1503	ボールの飛距離と体の関係	大島 聡矩
1504	水の効果と水分の一番いい量	白石 哲
1505	三笠薫はなぜ世界で活躍できるまで成長したのか	守川 直杜
1506	勉強するまえになにをしたら暗記しやすくなるか	田島 亜希
1507	天気と日焼けの関係性	水口 雅人
1508	どうやったら足が速くなるのか	川崎 憲二

1509	どうやったらボールを遠くに飛ばせるか	守川 直杜
1510	パルサここ数年のCLで勝てなくなった理由をクレ目線から徹底解析	守川 直杜
1511	ロジックリサーチとは	川崎 憲二
1512	入浴の時間と睡眠の質について	守川 直杜
1513	野菜の食塩量と水分量の関係性	中村雄一郎
1514	音楽と心の関係性	川崎 憲二
1515	昔からある言い伝えは本当なのか	中村雄一郎
1516	自転車のギアは1～6でどれが一番早くこげるか	岩山 真大
1517	昼寝と授業の関係性	後藤 裕市
1518	睡眠が体に及ぼす影響	犬童 晴南
1519	水と健康の関係と熊本の水	沖村 麻美
1520	同じ教育学部でも学習することは違うのか、違うならどのようなところが違うのか	橋本 慎二
1521	次世代のエネルギー核融合発電について	岩山 真大
1522	スマホのブルーライトが睡眠の質に与える影響	後藤 裕市
1523	AIに人間の仕事は奪われてしまうのか	吉本 真理
1524	世の中の自動化について	吉本 真理
1525	在宅医療の実態にせまる	長田 洋子
1526	色が与える味覚への影響	原田 亜弥
1527	一般人に理解が難しい芸術があるのはなぜか	岩山 真大
1528	色が人間に与える影響	福島 和美
1529	戦後の日本の戦争に対する考えの変わり方	小川 康
1530	光の色とストレスの関係性	井手裕美子
1531	勉強をゲームのように楽しみながらするのは学習能力を高めるのか	長田 洋子
1532	AIによって奪われる仕事と生まれる仕事	吉本 真理
1533	消化しやすい食べ物に共通していること	中村雄一郎
1534	睡眠の質を向上するためには	犬童 晴南
1535	言語と世界の経済の関連性	橋本 慎二
1536	Pa+が増えることによってどのような効果があるのか	大窪 妙子
1537	周りの環境や記憶法が記憶力に与える影響について	白石 哲
1538	食品添加物が体に悪いわけ	原田 亜弥
1539	天気予報の当たる確率	橋本 慎二
1601	たくさん寝るほど身長は伸びるのか	津田 竜志
1602	少子高齢化はなぜ起きるのか？	皆越千賀子
1603	社会でのAIの有用性	吉本 真理
1604	日本経済のインフレとデフレについて	本多 栄喜
1605	魚は日焼けをするのか	太田黒景司
1606	睡眠時間はどのぐらいがベストなのか	後藤 裕市
1607	人間の集中力の持続時間	井手裕美子
1608	運動の重要性	田島 亜希
1609	「鬼滅の刃」から学ぶ現代文化と大正文化の違い	小川 康
1610	すいみんと眠気	後藤 裕市
1611	音楽を聴きながら作業するのは効率が良いのか	小川 康
1612	身長を伸ばすためには睡眠は関係はあるのか	津田 竜志
1613	幼児はなぜアンパンマンや仮面ライダー、プリキュアなどヒーローアニメを好きになりやすいのか	西本恵美子
1614	昼寝の効果と最適な環境や時間帯	後藤 裕市
1615	運動で得られることと生活の関係性	沖村 麻美
1616	日本の空港と海外の空港の違い	小川 康
1617	何をすると身長が伸びやすくなるのか	田島 亜希
1618	植物	中村雄一郎
1619	朝勉強することで得られること、夜勉強することで得られること	大島 聡矩
1620	一般企業になるには	植田 直子
1621	黒子のバスケからバスケのルールを学べるのか	守川 直杜
1622	睡眠の重要性	松永 夏海
1623	障害持ちの弟を学校に行かせるにはどうしたらいいか	串山 春樹
1624	人が地球以外の惑星に住むためには	犬童 晴南
1625	アイマスクと目の関係性について	小川 康
1626	風はどこから来てどこに行くのか	本多 栄喜
1627	疲労状態が中々回復しないのなぜか	犬童 晴南
1628	栄養素の高い野菜はなにか	中村雄一郎
1629	睡眠の重要性	白石 哲
1630	集中力を上げるために必要なことや場所なども関係はあるのか	井手裕美子
1631	馬門石について	本多 栄喜
1633	除草剤について	小川 康
1634	音が体に与える影響	大島 聡矩
1635	言語力の重要性	小川 康
1636	音楽を聴くことによる集中力の変化	松永 夏海
1637	勉強に集中できる方法	犬童 晴南
1638	音楽の聞くジャンルによる人の心理の変化	大島 聡矩
1620	一般企業になるには	植田 直子

(4) 中学3年宇土未来探究講座・卒業研究

担当教員

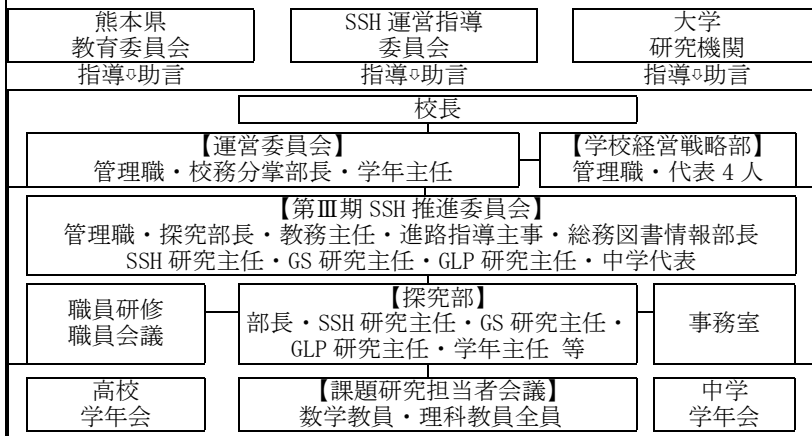
浅川修弘 石川未来 下川明大 山本涼一 藤本大平 村嶋恭子
内村友哉 井上淳一 山崎圭三 高木健志 田多良裕士 伊藤裕子

ID	テーマ
3102	竹チップが与える植物への影響 ～竹の保水能力～
3104	塩分を摂りすぎないようにするにはどうすればいいのか～普段の生活からできること～
3105	水の摩擦熱 ～効率よく水温を上げる！！～
3106	道路標識の形について
3107	チンダル現象～明るさの調整～
3108	蜘蛛の糸～蜘蛛の糸と人の糸～
3109	筆記具について
3110	蜃気楼のひみつ
3111	化粧品と多様性～様々な多様性について～
3112	売れる映画とは
3114	文字が人に与える影響 日常生活と文字の関わり
3115	どうすれば無駄をなくせる？～大量に捨てられるレシート～
3116	夢の謎
3117	虹を作る～二重虹の神秘～
3119	時代による美人の変化
3120	一番多い数字はなにか
3121	世界のスポーツ
3122	ブラバンカッターをつくる
3124	食と科学
3126	水と植物
3127	なぜお椀型のアルミホイルは上向きでおちやすいのか。
3128	竹取物語～かぐや姫の謎～
3129	空き家の活用法 ～空き家を減らすためには～
3130	道路標識の色の意味
3131	腐食のメカニズム ～錆の秘密を探ろう～
3132	4色型色覚の仕組み
3133	いじめの原因と対策 ～人はなぜ、いじめをするのか～
3134	本の摩擦力
3135	熊本の郷土菓子ふるさとの食
3136	睡眠と夢の関係性～明晰夢を見る方法～
3137	クフ王の墓の謎～王墓は何処へ～
3139	温泉の不思議にせまる
3201	神も仏も信仰する日本人の不思議
3202	スマート農業の今と未来
3205	食品ロスと貧困問題について～私達ができる対策とは～
3206	恐怖について
3207	サメの絶滅を阻止するには
3208	ノートの取り方とテスト結果の関連性
3209	色の見え方の違いについて～もし小学一年生の黄色い帽子が他の色だったら～
3210	自律神経を良くしていくためには
3211	光の色と植物の成長～当てる光の色によって植物の成長に変化はあるのか～
3212	アサリ減少の原因は～マイクロプラスチックが生態系に与える影響はあるか～
3213	マイクロファイナンスについて学ぼう
3214	生ゴミを肥料に ゴミをなくす取り組み
3215	食品ロスへの対処～残飯の活用法～
3216	方言やなまりはなぜ生まれたのか～方言の活用、効果～
3218	地球or環境に優しく人間にも優しくするには！？～ヒートアイランド現象から分析する～
3220	たばこがからだに与える影響
3221	気候変動とは～原因究明とその対策～
3222	水道水とボトルウォーターの比較と選択の基準
3223	建築物における強度
3224	植物の成長と光の色の関係
3225	紫外線 ～皮膚がんとの関係～
3226	事故を減らすための工夫～道路の速度抑制～
3227	鉄道の環境への影響と これからの熊本の公共交通の在り方
3228	酸性雨に強い植物を作る ～酸性雨に備えるために～
3230	薬について知ろう～種類・飲み合わせ・使用方法～
3231	生き物の鼻紋の違いとは～模様の特徴と役割～
3232	香害問題について～人にも環境にもやさしい香りとは～
3233	質量が同じ氷でも溶ける速さが変わるのはどんなときだろう
3236	睡眠時間と効果の関係 ～1番最適な時間、勉強との関係～
3237	睡眠の質と睡眠時間
3238	石垣の積み方は何通りあるのか
3239	スマホの熱を冷ますには

4 用語集（本校が独自に考案し、独自の使い方をしている用語）

注釈	語句	報告書	説明						
				1 年	2 年・3 年				
					中進 SS	高進 SS	中進 文	高進 文	高進 理
1	UTO-LOGIC	P. 11	本校が定義した生徒に身につけさせたい力。論理的に、客観的に、グローバルに思考せよ。その思考は革新的であれ、創造的であれ	●	●	●	●	●	●
2	ロジックルーブリック	P. 12	UTO-LOGIC の高校 3 年間の探究活動の到達度を L, O, G, I, C の 5 観点と 5 尺度で評価する表。	●	●	●	●	●	●
3	ロジックチェックリスト	P. 12	スライド口頭発表、ポスター、要旨（論文）等、成果物を LOGIC の 5 観点に関する項目の確認判断表。	●	●	●	●	●	●
4	ロジックアセスメント	P. 11	UTO-LOGIC を測る総合問題。CBT 形式で問う。	●	●	●	●	●	●
5	ウェルビーイングシート	P. 12	探究、体験等をウェルビーイングの視点で振り返りまとめるシート	●					
6	探究の「問い」を創る授業	P. 13	全教科、全授業が進める本校探究型授業の名称。教員が、生徒が、授業から「問い」を創る。	●	●	●	●	●	●
7	未来科学・未来科学 Lab	P. 16	高校 1 年で理科、基礎 4 領域を扱う学校設定科目。理科 4 領域の探究型実験を行う時間。	●					
8	Junior Well-Being	P. 15	通称 JWb。中学で数学・理科を教科横断的な学びで深める選択教科。						
9	Junior Technology	P. 15	通称 J-Tech。中学で技術を教科横断的な学びで深める選択教科。						
10	宇土未来探究講座	P. 22	中学段階の総合的な学習の時間の名称。						
11	ロジックプログラム I・II・III	P. 23	高校段階の「理数探究基礎」「理数探究」「情報 I」の代替科目、社会と共創して探究活動を展開する。	●	●	●	●	●	●
12	ロジックリサーチ	P. 23	ロジックプログラム I で上期に 1 人 1 テーマで行う探究活動の名称	●					
13	ブレ課題研究	P. 25	ロジックプログラム I で下期に行う探究活動の名称。	●					
14	未来体験学習	P. 25	ロジックプログラム I で全生徒が夏期休業中に行う先端企業訪問、希望生徒が 12 月つくば学園都市で行う研修プログラムの名称。	●					
15	SS(スーパーサイエンス)課題研究	P. 27	2 年、3 年次で数学・理科の教員を中心に自然科学に関する探究を行う。		●	●			
16	GS(グローバルサイエンス)課題研究	P. 30	2 年、3 年次で理数以外の教員を中心に数学・理科の教員が関わりながら人文科学、社会科学に関する探究を行う				●	●	●
17	学際課題研究	P. 27	2 年、3 年次で SS 課題研究と GS 課題研究を融合させたテーマで行う課題研究。理科・数学の教員とそれ以外の教員が共同で指導を行う。		●	●			
18	ロジックガイドブック	P. 30	全生徒、教員が活用する探究の手引き。		●	●	●	●	●
19	GS 本	P. 30	GS 課題研究に取り組む生徒、教員が活用する探究の手引き。				●	●	●
19	SSH 研究成果要旨集 SSH 課題研究論文集	P. 32	2 月製本。全探究活動を 1 テーマ 1P にした要旨集。 7 月製本。3 年課題研究を 1 テーマ 8P にした論文集。	●	●	●	●	●	●
20	UTO Well-Being 探求ワード	P. 32	夏に行う本校の成果発表会の総称。中・高の主な探究の取り組みを紹介する。UTO-LOGIC を駆使する様子を披露する。	●	●	●	●	●	●
21	ロジックスーパー プレゼンテーション	P. 32	冬に行う全生徒の探究の 1 年間の取り組みの成果を発表する場。UTO-LOGIC を駆使する様子を披露する。	●	●	●	●	●	●
22	GLP	P. 33	グローバルリーダー育成プロジェクトの略、希望者対象海外研修。	●	●	●	●	●	●
23	英語活用教室 U-CUBE	P. 33	GLP 研究主任が常駐する英語活用教室の総称。	●	●	●	●	●	●
24	ペーパーブリッジコンテスト	P. 35	中学美術で産・学・官連携して実践する STEAM 教育の名称						
25	学びの部屋 SSH	P. 35	近隣の児童対象に理科実験指導及び自由研究相談を行う企画。	●	●	●	●	●	●
26	Well-Being I・II	P. 36	高校 1 年、2 年の「数学 I」「情報 I」の代替科目、データを駆動させ、自身の健康や地域社会のウェルビーイングを追求する科目	●					
27	ウトウトタイム	P. 38	本校昼休みに設定する午睡の時間の総称。	●	●	●	●	●	●
28	ウェルビーイング 市民公開講座	P. 37	学校設定科目「Well-Being I・II」で取り組んだウェルビーイングに関する取組を地域へ発信するシチズンサイエンスの一環。	●					
29	SSH 研究推進委員会	P. 43	各校務分掌の代表の視点から SSH 事業の方向性を検討する会議。						
30	探究部	P. 43	探究部長を中心に、各学年が主体となって事業推進する会議						
31	GS 研究主任	P. 43	GS（グローバルサイエンス）課題研究の推進を図る研修主任						
32	GLP 研究主任	P. 43	U-CUBE に常駐し、海外研修、留学生支援、海外進学支援など国際教育の推進を図る研究主任						
33	3 人 1 組教科の枠を越える授業研究	P. 43	理科×家庭×保健等、3 人 1 組で授業研究及び公開授業を行う職員研修の総称						
34	課題研究担当者会議	P. 43	数学、理科教員で SS 課題研究に関する情報交換する会議						
35	Well-Being 開発会議	P. 43	学校設定科目 Well-Being I・II のシラバス・教材開発を行う会議						

全校体制・組織に関する用語索引



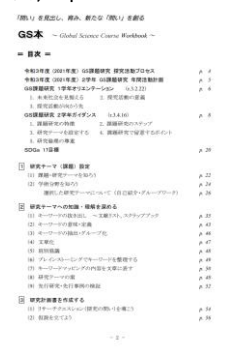
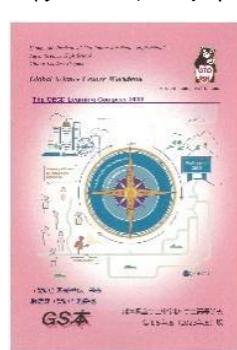
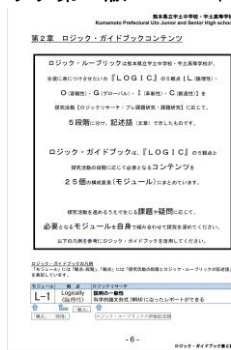
5 開発独自教材一覧

(1) ロジックルーブリック “LOGIC” 『Think Logically, Objectively and Globally. Be Innovative and Creative.』

	Logicity (論理性)	Objectivity (客観性)	Global (グローバル)	Innovativeness (革新性)	Creative (創造性)	Well-Being (ウェルビーイング)
5	説明の論理性 研究をアカデミックライティングの手法で説明できる	研究の客観性 第三者が課題研究論文集から客観的に研究証明できる	国際発表 英語で課題研究の成果を発表することができる	構造の変化 研究結果から従来の枠組・構造を変えることができる	概念の創造 研究結果から新しい概念を見出すことができる	探究と公共 探究を人類・社会の幸せを願って進めることができる
4	説明の対照性 対照実験としてコントロールの設定ができる	研究の正当性 統制群とコントロールの違いを統計的に証明できる	国内発表 研究の成果を学校外で発表することができる	疑問の変化 研究結果・考察から手法や条件の再設定ができる	価値の創造 研究内容及び研究結果に価値を見出すことができる	探究と共生 探究を学校や地域をよくするため進めることができる
3	説明の一貫性 研究の仮説・目的と手法、結果、考察に一貫性がある	研究の再現性 実験手法から再現性の高い結果を示すことができる	同世代発表 研究の成果を様々な高校生に発表することができる	仮説の変化 研究結果の考察から研究の仮説を再設定できる	思考の創造 研究結果の考察から新たな研究を見出すことができる	探究と展望 探究を個人の希望と展望を持って進めることができる
2	説明の確実性 説明の根拠となるデータを示すことができる	研究の妥当性 確立した科学的手法を用いた実験・研究ができる	グローバルの一步 研究の概要を英語でも説明することができる	知識の変化 研究内容と教科書等学習内容の関連付けができる	知識の創造 研究内容から教科書等学習内容の知識ができる	探究と個人 探究を個人の興味や関心に基づき進めることができる
1	説明の一般性 科学的論文形式IMRADに沿ったレポートができる	情報の正確性 参考文献の出典を明らかにしたレポートができる	視野の広がり 自分の興味視野を未知の世界で拓くレポートができる	感覚の変化 自分の認識・感覚を変えるレポートができる	未知の創造 自分の既知と未知の区別があるレポートができる	探究と意義 探究を外的刺激や責任・義務感で進めることができる
	知識・技能【探究】		思考・判断・表現【探究】			主体性【探究】

(2) ロジックガイドブック第二版

(3) GS (グローバル・サイエンス) 本



(4) ホームページ掲載教材 (URL : <https://sh.higo.ed.jp/utosh/SSH> 新 <https://uto-sh.com/2021-12-09-09-39-08.html>)

① ロジックリサーチガイダンス動画	⑥ ウトウトタイムから拓がる探究の世界
② ロジックリサーチテーマ設定ガイダンス動画	⑦ どこまで認める？どう活かす？ゲノム編集
③ プレ課題研究ガイダンス動画	⑧ 架け橋プロジェクト (ペーパーブリッジコンテスト)
④ 未来科学 Lab チェックリスト	⑨ SSH ポスターセッション動画
⑤ ロジックチェックリスト	⑩ SSH 課題研究論文集・SSH 研究成果要旨集

6 研究開発の分析の基礎資料・データ

質的調査

実施 令和6年2月

対象 SS コース3年43人, 2年45人, GS コース3年147人, 2年157人, 1年207人(有効回答)

方法 Web アンケート (Google form 選択肢回答法 (Closed-ended question) ・単数回答法 (SA; Single Answer))

間隔尺度 (強制選択尺度[4件法 4: 肯定, 3: やや肯定, 2: やや否定, 1 否定]) の各段階の割合と平均を求める。

分析 ポートフォリオ (CS ポートフォリオ) 分析として, 研究開発の仮説を総合評価に設定し, 個別評価要素の重要度指標と満足度指標を得て, 重点的改善要素を抽出する。 (㊦研究開発実施報告書 (本文) 第5節 実施の効果とその評価に分析内容を示す)

I 理数教育と探究の問いを創る授業

理科が好きです

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	28.9	12.9	8.3	17.9
3	53.5	48.9	22.3	35	30.9
2	9.3	22.2	34.5	42.7	34.8
1	2.3	0	30.2	14	16.4
Ave	3.21	3.07	2.18	2.34	2.55

学校で理科をもっと勉強したい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	28.9	12.2	7	15.9
3	53.5	48.9	22.3	34.4	39.6
2	9.3	22.2	33.8	43.9	28
1	2.3	0	32.4	14.6	16.4
Ave	3.21	3.07	2.18	2.34	2.55

理科を勉強すると日常生活に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	39.5	26.7	23	13.4	19.3
3	58.1	57.8	22.3	47.8	44.9
2	2.3	15.6	25.9	28	25.1
1	0	0	17.3	10.8	10.6
Ave	3.37	3.11	2.65	2.64	2.73

他教科を勉強するために理科が必要だ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	25.6	20	15.8	4.5	14.5
3	53.5	46.7	22.3	30.6	29
2	16.3	28.9	38.8	50.3	38.2
1	4.7	4.4	26.6	14.6	18.4
Ave	3.00	2.82	2.28	2.25	2.40

理科を意図的に学習する時間が増えた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	26.7	14.4	7.6	10.1
3	53.5	60	22.3	28	31.4
2	9.3	13.3	36	49	38.6
1	2.3	0	30.9	15.3	19.8
Ave	3.21	3.13	2.21	2.28	2.32

理科を学ぶと探究活動に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	39.5	17.8	25.2	11.5	19.3
3	51.2	62.2	22.3	40.8	44
2	9.3	17.8	27.3	33.1	24.6
1	0	2.2	21.6	14.6	12.1
Ave	3.30	2.96	2.57	2.49	2.71

数学が好きです

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	11.6	24.4	10.8	10.2	19.8
3	53.5	48.9	22.3	39.5	38.2
2	27.9	24.4	38.8	35.7	28.5
1	7	2.2	28.1	14.6	13.5
Ave	2.70	2.96	2.20	2.45	2.64

学校で数学をもっと勉強したい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	11.6	26.7	6.5	10.8	18.4
3	60.5	42.2	22.3	37.6	40.1
2	20.9	28.9	36	36.3	27.5
1	7	2.2	32.4	15.3	14
Ave	2.77	2.93	2.11	2.44	2.63

数学を勉強すると日常生活に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	16.3	20	11.5	11.5	15.9
3	60.5	40	22.3	31.8	38.2
2	18.6	31.1	35.3	38.9	32.9
1	4.7	8.9	19.4	17.8	13
Ave	2.88	2.71	2.41	2.37	2.57

他教科を勉強するために数学が必要だ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	25.6	24.4	18.7	8.9	14
3	46.5	46.7	22.3	36.9	38.2
2	25.6	22.2	30.9	41.4	30.4
1	2.3	6.7	21.6	12.7	17.4
Ave	2.95	2.89	2.48	2.42	2.49

数学を意図的に学習する時間が増えた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	25.6	31.1	12.2	11.5	17.4
3	55.8	55.6	22.3	44.6	39.6
2	11.6	13.3	33.8	33.1	29
1	7	0	25.2	10.8	14
Ave	3.00	3.18	2.32	2.57	2.60

数学を学ぶと探究活動に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	18.6	13.3	11.5	10.8	15
3	55.8	48.9	22.3	35	41.1
2	18.6	33.3	33.1	39.5	31.9
1	7	4.4	25.2	14.6	12.1
Ave	2.86	2.71	2.32	2.42	2.59

理数系教育が充実している

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	41.9	26.7	30.9	9.6	22.7
3	53.5	55.6	22.3	58.4	45.9
2	4.7	15.6	14.4	24.8	25.1

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
1	0	2.2	9.4	10.2	6.3
Ave	3.37	3.07	2.98	2.64	2.85

探究活動が好きです

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	46.5	37.8	13.7	10.2	14
3	51.2	42.2	22.3	39.5	42.5
2	2.3	15.6	31.7	38.9	30.4
1	0	4.4	16.5	11.5	13
Ave	3.44	3.13	2.52	2.48	2.57

学校で探究活動をもっと勉強したい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	48.8	31.1	10.1	7	11.1
3	48.8	44.4	22.3	35.7	33.8
2	2.3	22.2	39.6	42	38.6
1	0	2.2	19.4	15.3	16.4
Ave	3.47	3.04	2.35	2.34	2.40

探究活動を勉強すると日常生活に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	39.5	26.7	15.8	9.6	15.9
3	51.2	55.6	22.3	49.7	45.4
2	7	15.6	25.2	30.6	25.1
1	2.3	2.2	16.5	10.2	13.5
Ave	3.28	3.07	2.60	2.59	2.64

他教科を勉強するために探究活動が必要だ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	27.9	20	10.8	5.1	9.2
3	53.5	53.3	22.3	37.6	38.2
2	16.3	24.4	35.3	42.7	37.2
1	2.3	2.2	16.5	14.6	15.5
Ave	3.07	2.91	2.46	2.33	2.41

探究活動を意図的に学習する時間が増えた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	44.2	22.2	9.4	8.9	9.7
3	39.5	55.6	22.3	34.4	39.6
2	14	20	40.3	38.9	32.4
1	2.3	2.2	19.4	17.8	18.4
Ave	3.26	2.98	2.34	2.34	2.41

探究活動をするとき教科学習に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	32.6	15.6	8.6	8.3	11.1
3	46.5	57.8	22.3	40.1	41.1
2	20.9	24.4	38.8	35	31.4
1	0	2.2	15.8	16.6	16.4
Ave	3.12	2.87	2.41	2.40	2.47

宇土高校は探究型授業が充実している

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	53.5	42.2	45.3	30.6	34.3
3	41.9	44.4	22.3	51	44.9
2	4.7	13.3	13.7	14	16.9
1	0	0	7.2	4.5	3.9
Ave	3.49	3.29	3.16	3.08	3.10

II 探究活動

科学技術・数学・理科の魅力ある取組に参加できる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	37.2	40	16.5	6.4	16.9
3	60.5	48.9	22.3	40.1	41.1
2	2.3	11.1	30.2	46.5	30.4
1	0	0	12.2	7	11.6
Ave	3.35	3.29	2.64	2.46	2.63

社会・科学系の魅力ある取組に参加できる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	30.2	26.7	10.8	8.3	14.5
3	53.5	46.7	22.3	42	42
2	11.6	24.4	35.3	40.8	31.4
1	4.7	2.2	12.2	8.9	12.1
Ave	3.09	2.98	2.54	2.50	2.59

国際活動・英語の魅力ある取組に参加できる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	27.9	28.9	12.2	3.8	13.5
3	65.1	51.1	22.3	34.4	41.5
2	4.7	20	36.7	52.9	30
1	2.3	0	13.7	8.9	15
Ave	3.19	3.09	2.51	2.33	2.54

科学技術・数学・理科に関する能力やセンス向上に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	46.5	33.3	15.8	10.8	20.3
3	48.8	53.3	22.3	51	46.4
2	4.7	11.1	28.8	31.8	25.1
1	0	2.2	8.6	6.4	8.2
Ave	3.42	3.18	2.71	2.66	2.79

社会・人文科学系に関する能力やセンス向上に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	30.2	28.9	10.1	10.8	16.4
3	46.5	48.9	22.3	54.1	51.2
2	18.6	20	30.2	29.3	23.7
1	4.7	2.2	5.8	5.7	8.7
Ave	3.02	3.04	2.70	2.70	2.75

国際活動・英語に関する能力やセンス向上に役立つ

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	32.6	22.2	8.6	6.4	15
3	53.5	57.8	22.3	38.9	42.5
2	14	17.8	33.8	45.9	32.4
1	0	2.2	9.4	8.9	10.1
Ave	3.19	3.00	2.59	2.43	2.62

科学技術・数学・理科に対する興味・関心・意欲が高まる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	48.8	40	18	10.8	19.8
3	48.8	55.6	22.3	53.5	48.3
2	2.3	4.4	30.9	29.9	22.7
1	0	0	7.9	5.7	9.2
Ave	3.47	3.36	2.73	2.69	2.79

社会・人文科学系の興味・関心・意欲が高まる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	32.6	24.4	12.2	14	16.4
3	48.8	53.3	22.3	49.7	49.8
2	14	20	27.3	29.9	24.6
1	4.7	2.2	7.9	6.4	9.2
Ave	3.09	3.00	2.71	2.71	2.73

国際活動・英語の興味・関心・意欲が高まる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	30.2	24.4	12.2	6.4	14
3	62.8	55.6	22.3	44.6	48.8
2	7	17.8	36.7	38.2	27.1
1	0	2.2	8.6	10.8	10.1
Ave	3.23	3.02	2.61	2.46	2.67

Ave	3.21	2.89	2.56	2.65	2.63
宇土高校は英語教育が充実している					
	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	14	15.6	9.4	7.6	10.6
3	48.8	44.4	22.3	37.6	29.5
2	34.9	31.1	48.9	40.8	44.4
1	2.3	8.9	10.1	14	15.5
Ave	2.74	2.67	2.44	2.39	2.35

地域課題や地域資源の活用視野を拡げることができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	24.4	28.1	13.4	16.9
3	48.8	51.1	22.3	59.2	43.5
2	16.3	22.2	15.8	19.7	32.4
1	0	2.2	5.8	7.6	7.2
Ave	3.19	2.98	3.01	2.78	2.70

グローバルな課題発見や問題解決に視野を拡げることができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	41.9	33.3	34.5	12.7	19.8
3	51.2	48.9	22.3	59.9	45.9
2	7	17.8	18	20.4	25.6
1	0	0	5	7	8.7
Ave	3.35	3.16	3.06	2.78	2.77

大学や専門機関と連携して探究活動を進めてみたい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	53.5	42.2	15.8	11.5	23.2
3	41.9	48.9	22.3	44.6	39.1
2	4.7	8.9	34.5	32.5	29.5
1	0	0	12.9	11.5	8.2
Ave	3.06	3.33	2.58	2.56	2.77

地域や企業・自治体と連携して探究活動を進めてみたい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	42.2	19.4	17.8	22.7
3	62.8	42.2	22.3	38.2	38.6
2	2.3	15.6	36	33.1	30
1	0	0	10.1	10.8	8.7
Ave	3.33	3.27	2.65	2.63	2.75

他のSSH指定校の研究を調べたい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	27.9	26.7	12.2	5.1	10.1
3	30.2	42.2	22.3	19.7	16.9
2	32.6	24.4	31.7	38.2	30.4
1	9.3	6.7	44.6	36.9	42.5
Ave	2.77	2.89	1.97	1.93	1.95

SSH指定校の生徒と交流を図る機会を増やしたい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4		35.6		5.1	13.5
3		35.6		37.6	28
2		28.9		36.3	35.3
1		0		21	23.2
Ave		3.07		2.27	2.32

SSHについて家族や友人等に話す機会が増えた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	37.2	31.1	11.5	5.1	11.1
3	39.5	40	22.3	28.7	32.9
2	16.3	24.4	43.2	40.1	32.9
1	7	4.4	26.6	26.1	23.2
Ave	3.07	2.98	2.20	2.13	2.32

宇土高校のSSH事業が誇りである

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	44.2	40	22.3	16.6	19.3
3	44.2	48.9	22.3	46.5	37.7
2	11.6	11.1	23.7	23.6	27.5
1	0	0	7.2	13.4	15.5
Ave	3.33	3.29	2.85	2.66	2.61

III Well-Being I・II

WB I の授業で統計処理の仕方がよく分かった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					20.8
3					47.3
2					24.2
1					7.7
Ave					2.81

WB I の授業でレポートのまとめ方が分かった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					27.5
3					44.4
2					20.3
1					7.7
Ave					2.92

WB I の授業で統計をもっと深く学びたい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					19.3
3					35.3
2					36.2
1					9.2
Ave					2.65

WB I の内容を今後の課題研究に活かしてみたい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	37.2	37.8	15.8	10.2	14
3	55.8	46.7	22.3	61.1	46.4
2	7	15.6	29.5	24.8	30.4
1	0	0	5	3.8	9.2
Ave	3.30	3.22	2.78	2.78	2.65

知識の創造：研究内容から教科書等学習内容の知識ができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	37.2	24.4	17.3	8.9	15.9
3	53.5	55.6	22.3	54.1	44
2	9.3	15.6	33.8	33.1	30.9

4					25.6
3					43
2					24.2
1					7.2
Ave					2.87

LOGIC+W の6観点

Logically(論理性)

説明の一般性：科学的論文形式 IMRAD に沿ったレポートができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	27.9	22.2	10.8	7.6	9.2
3	60.5	51.1	22.3	43.9	38.2
2	11.6	22.2	38.1	40.8	40.1
1	0	4.4	4.3	7.6	12.6
Ave	3.16	2.91	2.66	2.52	2.44

説明の確実性：説明の根拠となるデータを示すことができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	41.9	31.1	18	10.8	14.5
3	48.8	53.3	22.3	55.4	45.9
2	9.3	15.6	27.3	28.7	32.4
1	0	0	4.3	5.1	7.2
Ave	3.33	3.16	2.83	2.72	2.68

説明の一貫性：研究の仮説・目的と手法、結果、考察に一貫性がある説明ができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	41.9	31.1	19.4	11.5	16.9
3	51.2	57.8	22.3	58	44
2	7	11.1	30.9	26.1	31.9
1	0	0	2.9	4.5	7.2
Ave	3.35	3.20	2.84	2.76	2.71

説明の対照性：対照実験としてコントロールの設定ができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	32.6	26.7	15.1	8.9	11.1
3	60.5	60	22.3	51	44
2	7	13.3	31.7	35	35.3
1	0	0	4.3	5.1	9.7
Ave	3.26	3.13	2.76	2.64	2.57

説明の論理性：研究をアカデミックライティングの手法で説明できる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	23.3	22.2	14.4	6.4	10.6
3	62.8	57.8	22.3	38.9	32.4
2	14	17.8	43.2	49	43.5
1	0	2.2	9.4	5.7	13.5
Ave	3.09	3.00	2.55	2.46	2.40

Objectively(客観性)

情報の正確性：参考文献の出典を明らかにしたレポートができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	51.2	22.2	27.3	20.4	18.8
3	41.9	62.2	22.3	51.6	47.3
2	7	15.6	20.9	23.6	27.5
1	0	0	4	7	13
Ave	3.44	3.07	3.01	2.88	2.79

研究の妥当性：確立した科学的手法を用いた実験・研究ができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	41.9	28.9	17.3	12.7	14
3	51.2	57.8	22.3	45.2	41.5
2	7	13.3	30.9	35.7	37.7
1	0	0	8	10	14
Ave	3.35	3.16	2.76	2.64	2.63

研究の再現性：実験手法から再現性の高い結果を示すことができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	30.2	28.9	13.7	8.3	13
3	62.8	51.1	22.3	45.2	42
2	7	20	36.7	40.8	37.2
1	0	0	6	9	16
Ave	3.23	3.09	2.70	2.56	2.60

研究の正当性：統制群とコントロールの違いを統計的に証明できる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	26.7	12.9	4.5	14
3	46.5	53.3	22.3	51	32.4
2	16.3	20	37.4	37.6	46.4
1	1	0	8	11	15
Ave	3.14	3.07	2.66	2.53	2.53

研究の客観性：第三者が課題研究論文集から客観的に研究証明できる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	26.7	14.4	8.9	13
3	53.5	51.1	22.3	47.8	34.3
2	11.6	22.2	36	36.3	44
1	0	0	6	11	18
Ave	3.23	3.04	2.71	2.59	2.52

Globally(グローバル)

視野の広がり：自分の興味・視野を未知の世界で拓くレポートができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	26.7	18	11.5	13
3	48.8	53.3	22.3	48.4	42
2	16.3	20	30.2	35	35.7
1	0	0	6.5	5.1	9.2
Ave	3.19	3.07	2.76	2.66	2.59

概念の創造：研究結果から新しい概念を見出すことができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	26.7	18.7	13.4	14
3	55.8	57.8	22.3	51.6	39.1
2	11.6	15.6	36.7	29.9	34.8
1	0	0	4.3	5.1	12.1
Ave	3.21	3.11	2.75	2.73	2.55

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	28.9	19.4	10.8	16.4
3	51.2	53.3	22.3	54.1	38.2
2	14	17.8	30.2	30.6	37.2
1	0	0	3.6	4.5	8.2
Ave	3.21	3.11	2.83	2.71	2.63

グローバルの一步：研究の概要を英語でも説明することができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	20.9	31.1	15.8	9.6	12.1
3	60.5	40	22.3	29.9	26.1
2	18.6	26.7	42.4	43.9	44
1	0	2.2	12.2	16.6	17.9
Ave	3.02	3.00	2.52	2.32	2.32

同世代発表：研究の成果を様々な高校生に発表することができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	39.5	31.1	15.8	8.3	12.1
3	48.8	53.3	22.3	41.4	29
2	11.6	15.6	36	39.5	41.5
1	0	0	7.2	10.8	17.4
Ave	3.28	3.16	2.67	2.47	2.36

国内発表：研究の成果を学校外で発表することができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	34.9	28.9	15.1	10.8	12.1
3	51.2	44.4	22.3	33.8	22.2
2	14	26.7	33.1	43.3	44
1	0	0	15.8	12.1	21.7
Ave	3.21	3.02	2.53	2.43	2.25

国際発表：英語で課題研究の成果を発表することができる

--

2					24.2
1					6.8
Ave					2.80

探究と個人：探究を個人の興味や関心に基づき進めることができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					18.4
3					50.7
2					24.2
1					6.8
Ave					2.81

探究と展望：探究を個人の希望と展望を持って進めることができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					16.4
3					49.3
2					25.6
1					8.7
Ave					2.73

探究と共生：探究を学校や地域をよくするため進めることができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					15.5
3					41.5
2					33.8
1					9.2
Ave					2.63

探究と公共：探究を人類・社会の幸せを願って進めることができる

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					16.9
3					48.8
2					25.6
1					8.7
Ave					2.74

SSH意識調査アンケート質問項目

未知の事柄への興味が（好奇心）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	53.5	28.9	27.3	22.3	26.6
3	46.5	60	22.3	52.2	53.1
2	0	8.9	20.1	19.1	15.5
1	0	2.2	7.9	6.4	4.8
Ave	3.53	3.16	2.92	2.90	3.01

科学技術・理科・数学の理論・原理への興味が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	44.2	33.3	10.8	8.3	20.3
3	55.8	51.1	22.3	42	39.6
2	0	13.3	32.4	37.6	31.4
1	0	2.2	18	12.1	8.7
Ave	3.44	3.16	2.46	2.46	2.71

観察・実験への興味が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	58.1	35.6	18.7	12.7	23.7
3	41.9	51.1	22.3	53.5	43
2	0	13.3	27.3	25.5	24.6
1	0	0	10.8	8.3	8.7
Ave	3.58	3.22	2.71	2.71	2.82

学んだことを応用することへの興味が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	48.8	28.9	21.6	11.5	15.9
3	48.8	60	22.3	46.5	49.3
2	2.3	8.9	25.2	34.4	27.5
1	0	2.2	7.9	7.6	7.2
Ave	3.47	3.16	2.82	2.62	2.74

社会で科学技術を正しく用いる姿勢が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	48.8	26.7	13.7	12.1	19.8
3	44.2	60	22.3	54.1	44.9
2	7	11.1	32.4	26.8	24.6
1	0	2.2	10.1	7	10.6
Ave	3.42	3.11	2.63	2.71	2.74

自分から取り組む姿勢（自主性、挑戦心）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	58.1	42.2	34.5	22.9	24.2
3	39.5	46.7	22.3	51.6	47.8
2	2.3	11.1	17.3	21.7	22.2
1	0	0	4.3	3.8	5.8
Ave	3.56	3.31	3.08	2.94	2.90

周知と協力して取り組む姿勢（協調性）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	69.8	42.2	51.8	29.9	35.3
3	30.2	51.1	22.3	54.1	46.9
2	0	6.7	7.2	12.1	14
1	0	0	2.9	3.8	3.9
Ave	3.70	3.36	3.37	3.10	3.14

粘り強く取り組む姿勢が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	72.1	35.6	33.8	22.3	24.2
3	27.9	55.6	22.3	58	48.3
2	0	8.9	18	15.9	22.2
1	0	0	2.9	3.8	5.3
Ave	3.72	3.27	3.10	2.99	2.91

独自のものを創り出そうとする姿勢（独創性）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	58.1	33.3	37.4	21.7	22.2
3	39.5	60	22.3	59.2	46.4
2	2.3	6.7	17.3	14	24.6
1	0	0	2.9	5.1	6.8
Ave	3.56	3.27	3.14	2.97	2.84

発見する力（問題発見力・気づく力）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
--	------	------	------	------	----

4	60.5	46.7	41	30.6	29.5
3	39.5	48.9	22.3	52.9	49.3
2	0	4.4	13.7	12.7	15.9
1	0	0	2.9	3.8	5.3
Ave	3.60	3.42	3.20	3.10	3.03

真実を探って明らかにする姿勢（探究心）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	58.1	35.6	32.4	19.1	28
3	41.9	60	22.3	56.1	48.3
2	0	4.4	17.3	21	17.9
1	0	0	2.9	3.8	5.8
Ave	3.58	3.31	3.09	2.90	2.99

考える力（洞察力・論理力）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	65.1	48.9	41	23.6	27.5
3	34.9	46.7	22.3	61.8	55.1
2	0	4.4	10.1	10.8	11.1
1	0	0	2.9	3.8	6.3
Ave	3.65	3.44	3.24	3.05	3.04

成果を発表し伝える力（プレゼンテーション力）が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	69.8	48.9	46	34.4	38.6
3	25.6	46.7	22.3	52.2	41.1
2	4.7	4.4	10.1	9.6	13.5
1	0	0	3.6	3.8	6.8
Ave	3.65	3.44	3.27	3.17	3.12

英語による表現力が向上する

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	32.6	22.2	8.6	8.3	14.5
3	55.8	48.9	22.3	33.1	33.3
2	11.6	28.9	43.2	46.5	37.7
1	0	0	15.1	12.1	14.5
Ave	3.21	2.93	2.39	2.38	2.48

ロジックリサーチ・ブレ課題研究

ロジックリサーチのテーマ設定をするための説明がしっかりなされていた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					21.7
3					53.6
2					18.8
1					5.8
Ave					2.91

ロジックリサーチの指導体制（1人1テーマ、担当の先生）はしっかりとなされていた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					24.6
3					51.7
2					16.4
1					7.2
Ave					2.94

ロジックリサーチに取り組むことで課題研究とはどのようなものか理解することができた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4					24.2
3					55.6
2					13
1					7.2
Ave					2.97

ブレ課題研究の取り組みは SSH 指定校以外の取組より効果があった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	39.5	24.4	15.1	9.6	14
3	48.8	57.8	22.3	52.2	48.3
2	11.6	13.3	37.4	31.2	30
1	0	4.4	7.2	7	7.7
Ave	3.28	3.02	2.65	2.64	2.69

ブレ課題研究を経験したことで課題研究の基礎が身についた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	41.9	37.8	25.2	10.8	22.7
3	48.8	42.2	22.3	60.5	43.5
2	9.3	17.8	18	22.9	26.1
1	0	2.2	6.5	5.7	7.7
Ave	3.33	3.16	2.95	2.76	2.81

ブレ課題研究を通じて、課題研究への期待が高まった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	39.5	42.2	18.7	11.5	18.8
3	51.2	44.4	22.3	48.4	43
2	7	8.9	27.3	33.8	28
1	2.3	4.4	10.1	6.4	10.1
Ave	3.28	3.24	2.73	2.65	2.71

課題研究のテーマを円滑に設定することができた

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	27.9	28.9	17.3	15.3	
3	51.2	42.2	22.3	47.1	
2	18.6	24.4	28.8	32.5	
1	2.3	4.4	7.2	5.1	
Ave	3.05	2.96	2.76	2.73	

課題研究が個人研究ではなくグループ研究で取り組むことができてよかった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	60.5	48.9	33.8	32.5	
3	34.9	42.2	22.3	49.7	
2	2.3	8.9	12.2	13.4	
1	2.3	0	5	4.5	
Ave	3.53	3.40	3.11	3.10	

課題研究に取り組むことで得られたものがある

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	53.5	48.9	30.9	24.2	
3	41.9	40	22.3	52.2	
2	2.3	11.1	14.4	20.4	

1	2.3	0	4.3	3.2	
Ave	3.47	3.38	3.07	2.97	

構想発表会が7月に設定されていて良かった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	27.9	31.1	10.8	12.7	
3	58.1	53.3	22.3	57.3	
2	11.6	15.6	30.9	24.2	
1	2.3	0	6.5	5.7	
Ave	3.12	3.16	2.69	2.77	

中間発表会が11月に設定されていて良かった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	25.6	37.8	14.4	12.7	
3	62.8	51.1	22.3	58.6	
2	9.3	11.1	25.2	24.2	
1	2.3	0	5.8	4.5	
Ave	3.12	3.27	2.79	2.80	

KSH（熊本県スーパーハイスクール）全体発表会が12月に設定されていてよかった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	39.5	35.6	22.3	15.3	
3	53.5	55.6	22.3	55.4	
2	7	6.7	25.2	24.2	
1	0	2.2	7.2	5.1	
Ave	3.33	3.24	2.84	2.81	

校内発表会・成果発表会が2月に設定されていて良かった

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4	37.2	33.3	23.7	19.1	
3	58.1	48.9	22.3	57.3	
2	4.7	15.6	21.6	19.1	
1	0	2.2	6.5	4.5	
Ave	3.33	3.13	2.90	2.91	

成果発表会では英語で発表をしてみたい

	3年SS	2年SS	3年GS	2年GS	1年
4		20		3.8	
3		44.4		22.3	
2		26.7		38.9	
1		8.9		35	
Ave		2.76		1.95	

課題研究

量的調査（平成 25 年度 SSH 指定校以降）

SSH 主対象生徒数、国際発表者数及び学会発表者数、国際発表及び学会の名称と発表者数を 1 期生から整理する。1 期生が 3 年間で経験した機会を累計して表記する。学校全体(SSH 主対象以外の生徒も含む)海外研修参加者数は年度で累計したものを表記する。

データ 1 SSH 指定以降 SS コース人数及び発表者数

	1 期生	2 期生	3 期生	4 期生	5 期生	6 期生	7 期生	8 期生	現 3 年生	現 2 年生	現 1 年生
英語口頭発表	全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員	*	*
国 際 発 表	6	14	16	13	19	37	15	11	15	9	0
学会等発表	6	20	39	26	29	31	42	40	10	73	24
中 進 S S	41	36	39	42	46	37	39	44	38	28	*
高 進 S S	11	9	12	23	22	27	22	15	9	27	*

データ 3 海外研修内容及び経験者数

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
GLP 中学 (英国・米国研修)	24	30	26	38	35	23	28	中止	代替	4	5
GLP 高校(米国研修)	10	23	9	7	8	6	11	中止	代替	6	-
ICAST(仏国・尼国・台湾・比国)	-	2	2	-	2	2	熊本	web	web	web	web
アジアサイエンス キャンプ(泰国・印度)	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
韓国盆唐中央 高校研究発表会	-	-	6	10	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止
台湾國立中興高級中學	-	-	-	-	-	10	10	中止	中止	Web	9
トビタテ留学 JAPAN (米国・比国)	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-
青少年科学技術会議(タイ)	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア 科学奨学生	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ライオンズクラブ 国際協会 YCE 派遣生	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
Intel ISEF	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
CASTIC 中国	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サイエンス GLP 米国	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOMODACHI Honda Global Leadership Program	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
静宜大学特別 プログラム(台湾)	-	-	-	-	-	-	4	中止	中止	中止	16
政府派遣事業(中国)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	36	57	47	62	47	46	53	0	0	10	30

データ 2 SSH 指定以降 SS コース国際発表及び学会発表者数

国際発表・学会 発表内容(略称)	1 期生	2 期生	3 期生	4 期生	5 期生	6 期生	7 期生	8 期生	現 3 年生	現 2 年生	現 1 年生
C A S T I C	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
I C A S T	4	-	-	2	2	18	14	11	7	-	-
I n t e l I S E F	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
タイ青少年科学技術会議	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
韓国盆唐中央高校	-	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-
台湾國立中興高級中學	-	-	-	-	6	6	-	-	8	9	-
SLEEP SCIENCE CHALLENGE	-	6	6	6	3	9	-	-	-	-	-
The Annual Meeting of JSDB	-	2	4	3	4	4	-	-	-	-	-
The Irago Conference	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
国際研究発表計	6	14	16	13	19	37	15	11	15	9	0
日 本 動 物 学 期	-	-	11	-	2	-	-	-	-	-	-
日本植物生理学会	6	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日 本 植 物 学 会	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
ブレ柴三郎研究発表会	-	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-
化学工学会西日本	-	6	5	-	4	10	-	-	-	-	-
日本物理学会	-	5	-	5	-	-	-	-	6	4	4
情報処理学会	-	-	-	-	5	2	5	-	-	-	-
バイオ甲子園	-	-	2	3	3	-	-	-	-	-	-
九州両生爬虫類研究会	-	5	5	2	-	-	-	-	-	-	-
日本両棲爬虫類学会	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
熊本記念植物採集会	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
国際統合睡眠科学機構	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-
日 本 農 芸 学 会	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-
日本霊長類学会	-	-	-	-	5	7	-	-	-	-	-
日本古生物学会	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
日本気象学会九州	-	-	-	-	2	6	10	-	4	4	4
日 本 気 象 学 会	-	-	-	2	2	11	8	-	4	4	4
日本地質学会	-	-	-	-	-	3	6	-	4	4	-
日本生理学会	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-
日 本 水 産 学 会	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-
日本地球惑星科学連合	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
全国ユース環境活動発表大会	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
自然・健康・文化・サイエンス熊本発表会	-	-	-	-	-	-	5	4	-	-	-
イノベーションフォーラム	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
くまがい研究フェア	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
マリンチャレンジ	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-
テックブラングランプリ	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-
WRO Japan 九州大会	-	-	3	2	3	-	-	-	-	-	-
全国統計研究発表会	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
海の宝アカデミックコンテスト	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-
三学会合同大会	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
グローバルサイエンティストアワード	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
Student Agency Pechakuchanight	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
世界に羽ばたく高校生の成果発表会	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-
マイナビキャリア甲子園	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
マイプロジェクトアワード	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-
学会研究発表計	6	20	39	26	29	31	42	40	11	73	24
サイエンスキャッスル	-	-	8	22	9	-	-	-	-	-	-
サイエンスインターハイ	-	-	-	17	8	-	-	-	-	-	-